

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2024年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業268社
3. 内 訳：製造業57、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業35
4. 回答企業数：165社（61.6%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－業況、売上、採算はプラス水準、約半数の企業で従業員が不足、日本人客が大幅に減少－
前年同期（2023年1月～3月）と比べた今期（2024年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2024年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは16.6で、前年同期と比べ3.0ポイント低下しました。業況は7期連続、売上は8期連続、採算は4期連続プラス水準で推移しました。小売業、観光業、サービス業では主要3項目DI全てがプラスとなりましたが、運輸・倉庫業ではマイナスとなりました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が課題で、約半数の企業で従業員が不足しています。

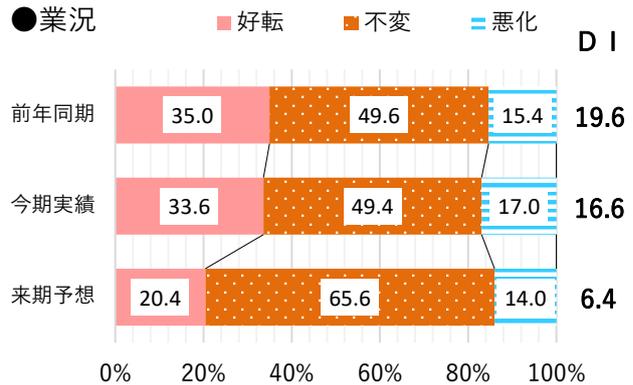
業種別業況DIは、製造業が同27.5ポイント上昇の14.2となりました。売上DIは低下しましたが、業況DIと採算DIがプラスに転じました。食料品は5割強の企業で売上が増加し、採算、業況が好転しました。プラスチックでは半数の企業で売上が減少し、6割強の企業で引合いが減少しました。卸売業は同18.2ポイント上昇の9.1となりました。食料品では6割弱の企業で売上が増加しましたが、約7割の企業で従業員が不足しており、全社で仕入単価が上昇しました。小売業は同31.9ポイント上昇の22.8となりました。大型店は全社で売上が増加し、8割強の企業で客単価が上昇しました。また、自動車小売の75%で採算が好転しました。運輸・倉庫業は同57.5ポイント低下の▲20.0で、主要3項目DIが全てマイナス水準となりました。旅客運送は6割の企業で売上が増加しましたが、75%の企業で従業員が不足しています。貨物運送ではおよそ半数、倉庫では6割強の企業で売上が減少しました。観光業は同19.7ポイント低下の46.9となりました。昨年同期比で日本人客が大幅に減少しましたが、外国人客の増加傾向が続いており、景況感を底上げしています。宿泊業では6割の企業で従業員数が減少し、7割の企業で従業員が不足しています。サービス業は同24.9ポイント上昇の39.2となりました。飲食店では8割の企業で売上が増加し、客単価が上昇しましたが、全社で仕入価格が上昇しました。建設業は同9.0ポイント上昇の4.6となりました。一般土木工事業では、資金繰り、引合い、業況について約9割の企業が、完成工事額、受注額について約7割の企業が不変と解答し、堅調に推移しました。

来期の業況判断DIは6.4で、好転傾向が弱まると予想しています。閑散期を脱し、好況を見込む企業がある一方で、各種経費の高騰や人材不足による販売機会の喪失を不安視する企業もあり、売上DIのプラス幅縮小や、採算DIのマイナス水準への移行等、低調な推移が予想されます。また、2024年問題の影響が懸念されます。

業況、売上、採算

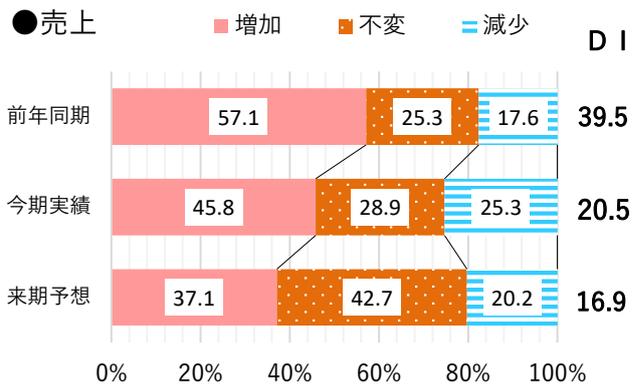
今期（2024.1～3）の業況判断DIは16.6で、前年同期（2023.1～3）と比べ3.0ポイント低下しました。

来期（2024.4～6）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



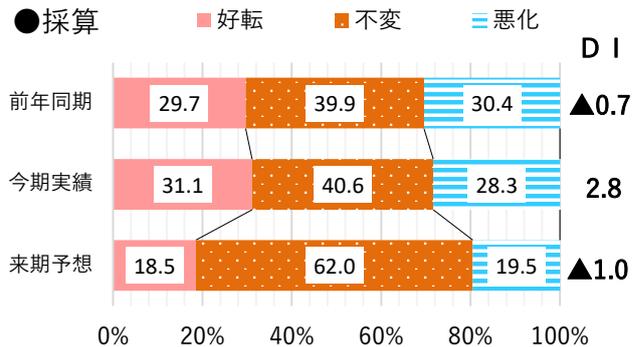
今期の売上DIは20.5で、前年同期と比べ19.0ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

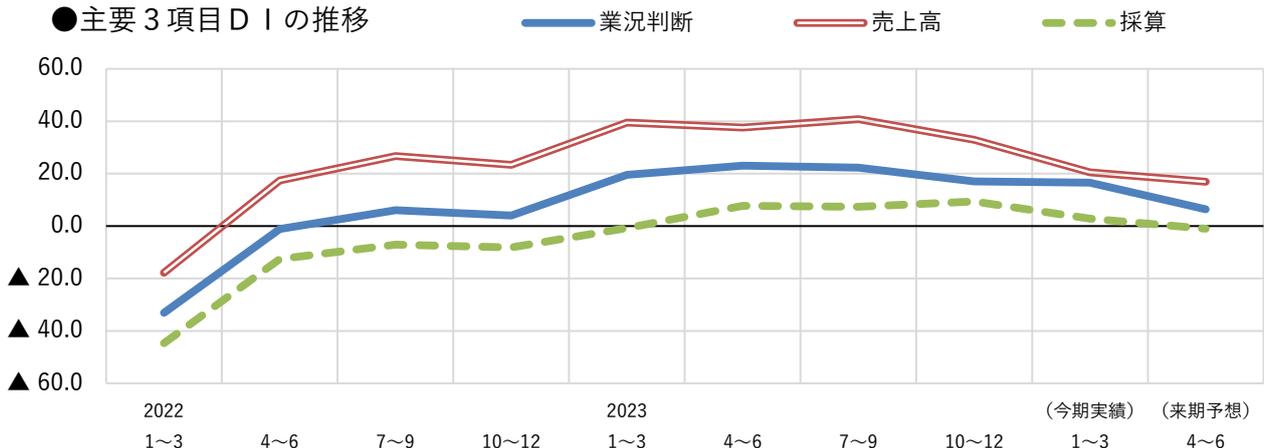


今期の採算DIは2.8で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



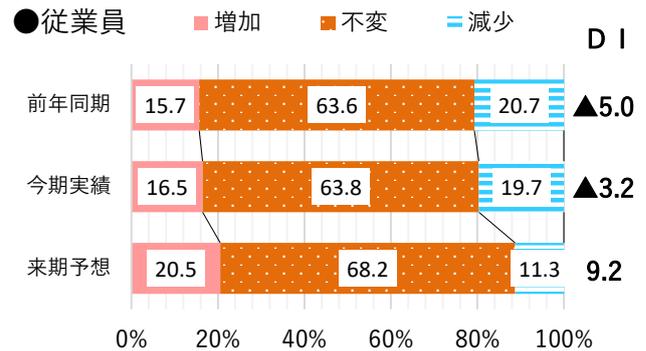
●主要3項目DIの推移



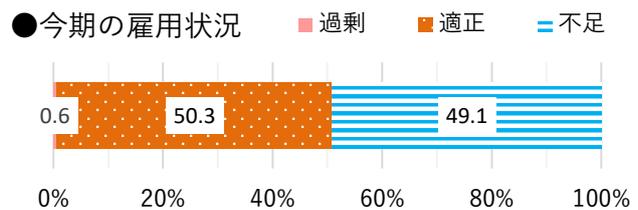
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.2で、前年同期と比べ1.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は0.6%、適正であると回答した企業の割合は50.3%、不足していると回答した企業の割合は49.1%でした。



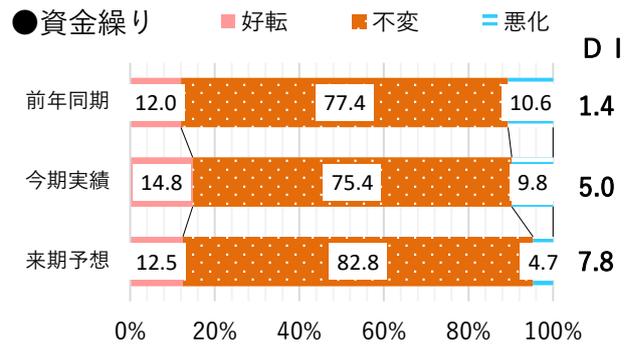
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、40.6%を占めました。49.1%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	11
	不足	16
不変だった	過剰	0
	適正	67
	不足	36
減少した	過剰	0
	適正	5
	不足	29

資金繰り、設備投資

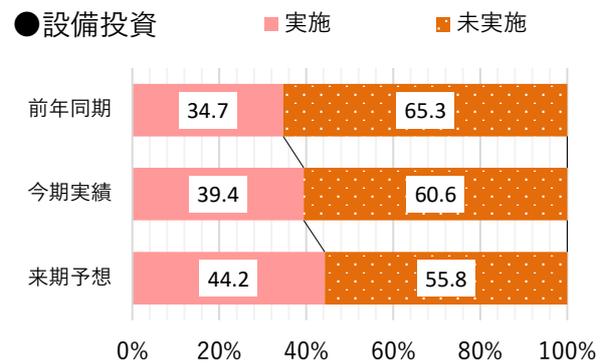
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった165社の39.4%にあたる65社が実施、前年同期と比べ4.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「付帯施設」の順です。

来期は、44.2%にあたる73社が設備投資を計画していると回答しています。

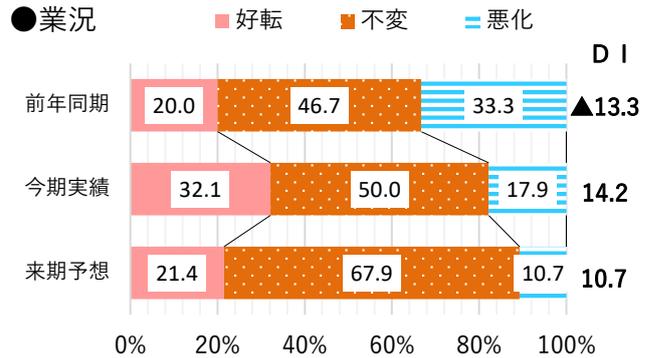


製造業

業況、売上、採算

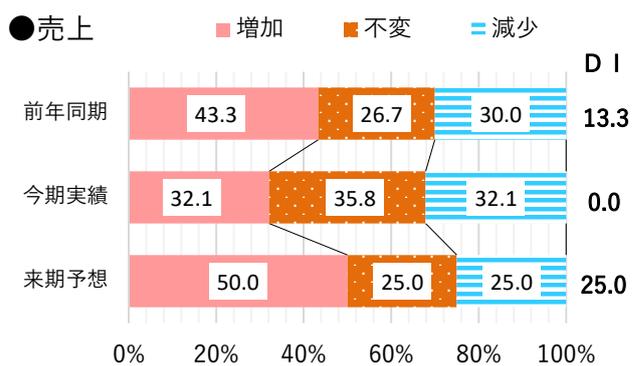
今期(2024.1~3)の業況判断DIは14.2で、前年同期(2023.1~3)と比べ27.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期(2024.4~6)は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



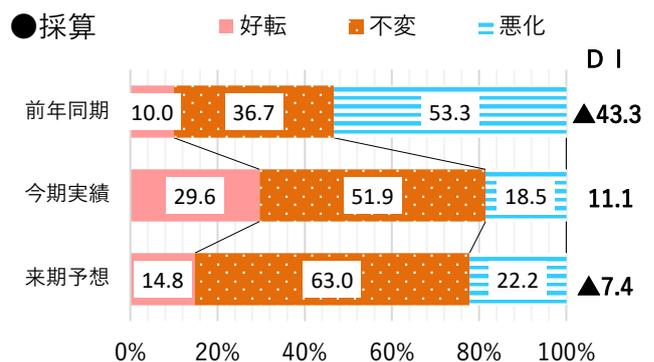
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ13.3ポイント低下しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

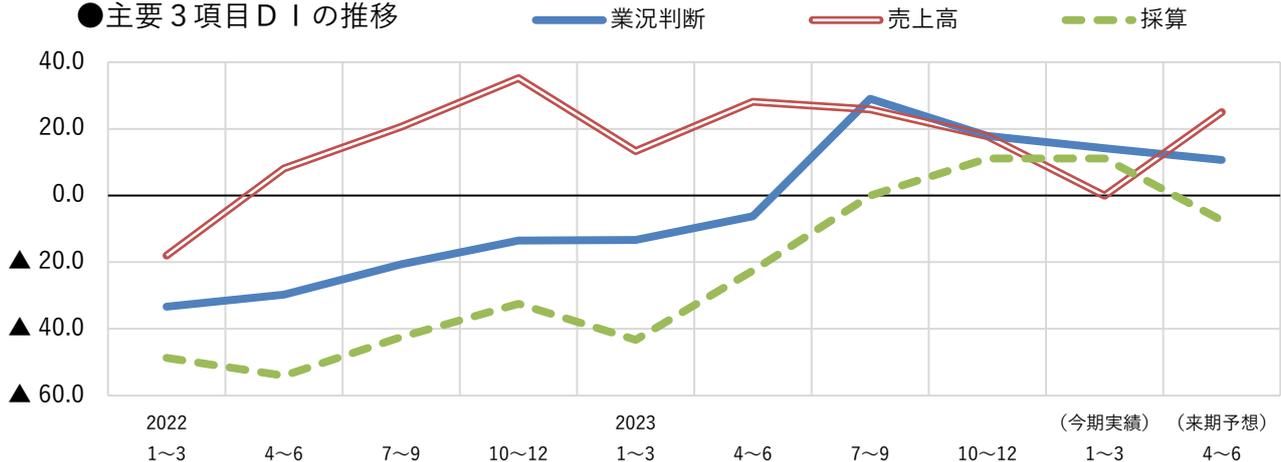


今期の採算DIは11.1で、前年同期と比べ54.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



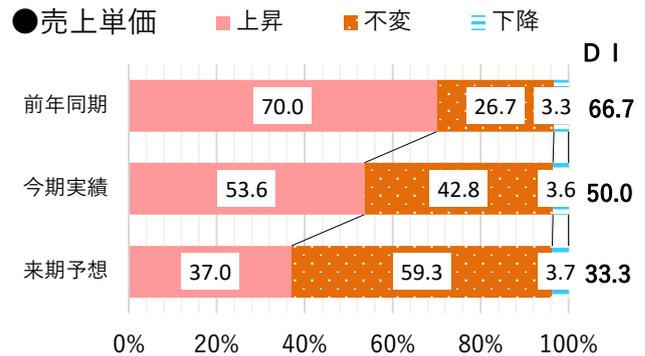
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

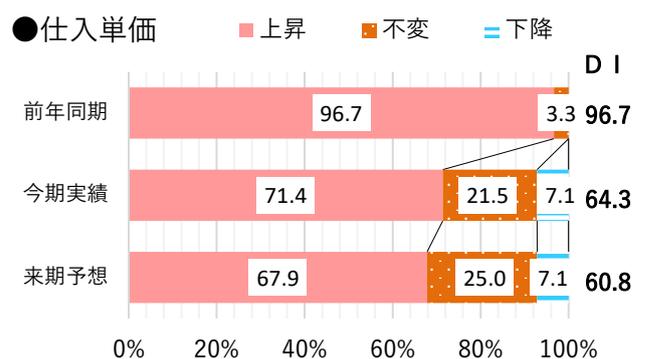
今期の売上単価DIは50.0で、前年同期と比べ16.7ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



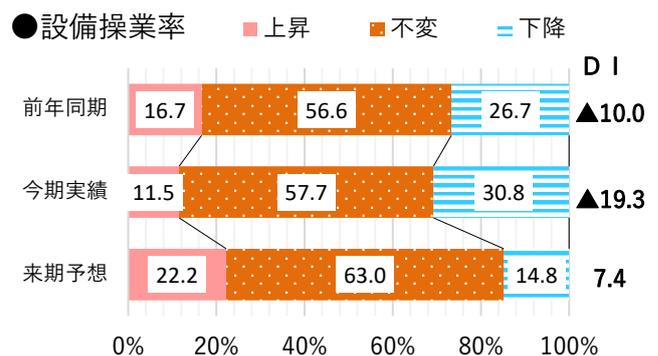
今期の仕入単価DIは64.3で、前年同期と比べ32.4ポイントと大幅に低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲19.3で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

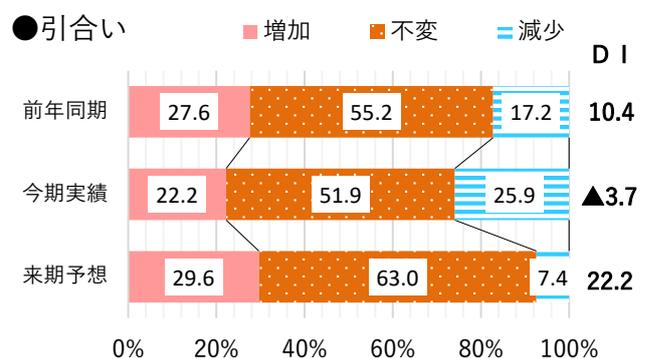
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲3.7で、前年同期と比べ14.1ポイント低下しました。

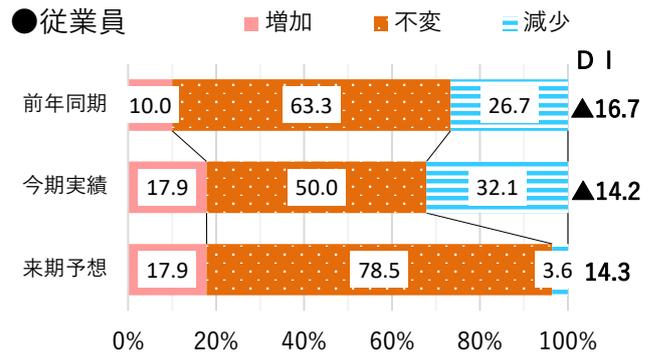
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



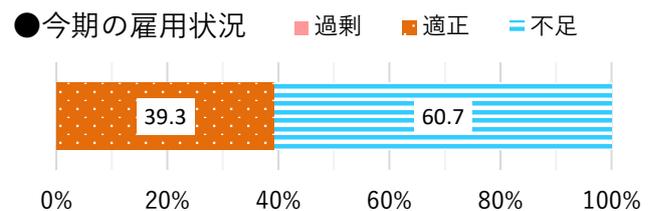
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲14.2で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は39.3%、不足していると回答した企業の割合は60.7%でした。



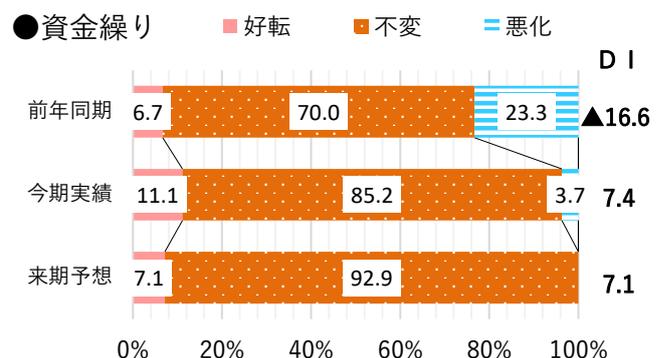
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、25.0%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。60.7%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	7

資金繰り、設備投資

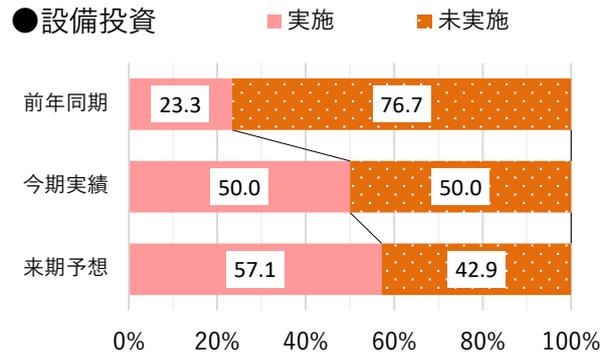
今期の資金繰りDIは7.4で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



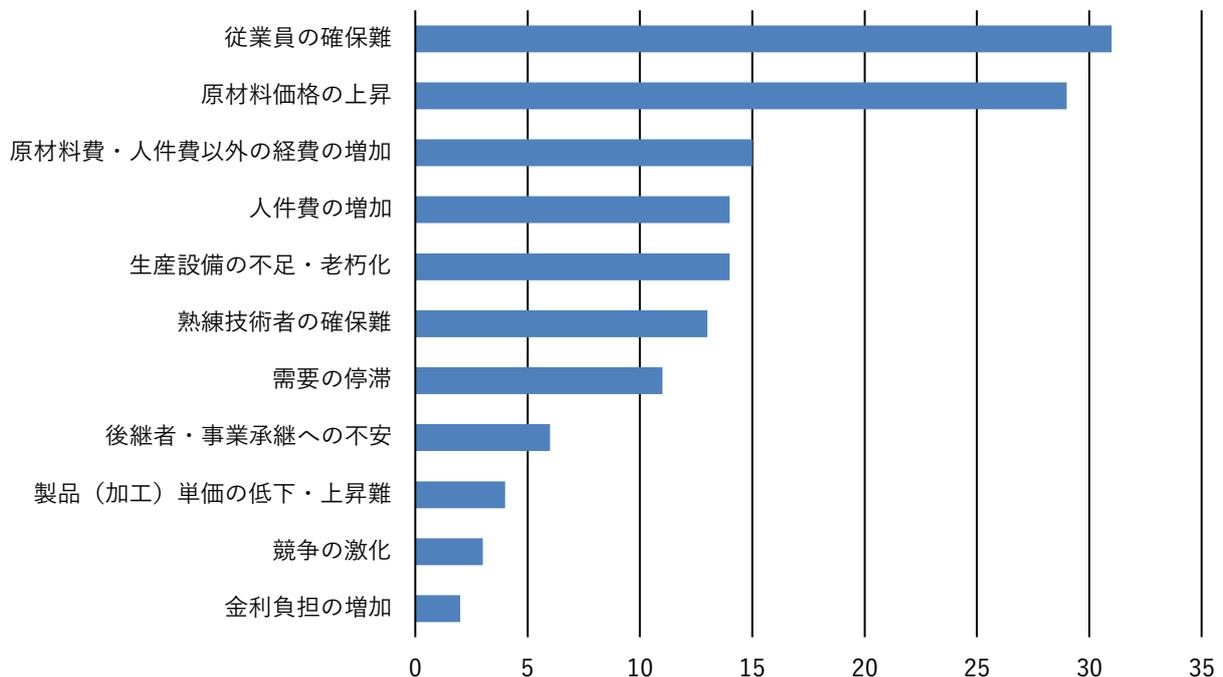
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ26.7%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は57.1%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「原材料価格の上昇」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 工事の進捗動向により、1～3月は売上高計上額が多くなった。（金属製品）
- 売上額は昨年度と同じくらいだった。（金属製品）
- 原材料、包装資材等の全般に渡る価格上昇と業界の大手企業による価格改定の影響で、中小、零細企業の価格改定も概ね受け入れられ易い環境にあったため、業況好転につながった。（食料品）
- 売上と利益率は変わらないが、必要な人材が不足している。賃金は毎年引き上げている。（食料品）
- 売上が増加しているとはいえ、原材料価格の高騰に対して価格転嫁が追い付かない。（食料品）
- 設備の不具合解消に時間がかかり、出荷量が減少したため、売上も減少した。（食料品）
- 今期は利益が取れていた。（食料品）

- 物価高騰による需要の減少傾向、円安による輸入資材価格の上昇の中で、人件費と労務費を引き上げ、必要人材を確保できた。最低賃金は政府の方針に従い引き上げており、若年層を中心にベースアップを実施した。労務費の価格転嫁は、これまで全くと言って良いほど価格交渉のテーブルに上がることがなかったため、来期に向けて準備を進める。（プラスチック）
- 受注が急激に減少し、それに伴い設備操業率も下降した。新規製品の納入抑制等、取引先の在庫調整が重なり厳しい状況となった。（プラスチック）
- 原材料価格、電気料金の上昇が採算を圧迫している。（プラスチック）
- 販売のタイミングのズレもあり売上額は減少した。原材料費、光熱費が高騰している。社員の募集を行っているが申し込みは少ない。早急な賃金の上げは難しい。（ゴム製品）
- 長靴やスノーブーツの売上は昨年同期比で低迷し、冬物在庫は想定より消化できなかった。（ゴム製品）
- 令和6年1月1日から、全商品を約20%値上げした。（医薬品・健康補助食品）
- 官公庁の発注方法が変わり、見込んでいた販売が延期、取り消しとなった。土木資材の動きが鈍かった。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

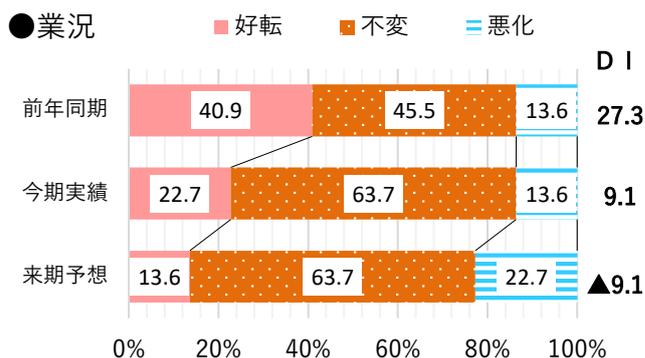
- 予定していた案件の遅れやズレ込み、一部は中止もあり、一時的に閑散期となる。（金属製品）
- 資材関係の値上げや賃金上げがあるので、厳しいと思われる。（金属製品）
- 一部の原材料の価格上昇、運賃、エネルギー価格の高止まり、人件費の上昇、円安の影響等がどの程度収益圧迫の要因になるか見えない部分があり、前年並に着地出来れば良しと考えている。（食料品）
- 他社も高い原料を消費し終わり卸価格が下落するため、利幅は徐々に減少する見込みだ。（食料品）
- 設備の不具合は解消されたので、出荷量は昨年実績超えを見込む。（食料品）
- 新卒の社員が入社するので、人員不足はやや改善される見込みだ。（食料品）
- 機械や工場への設備投資により、売上の増加に対応する。（食料品）
- 販売価格を引き上げるため、売上高は増加を見込む。仕入価格は需給のバランスではなく、水道光熱費等のユーティリティコストや物流コストによって決まるため、これらコストの上昇分を販売価格の引上げでカバーする。2024年度は製品価格の値上げを強化し、販売価格の最適化を図る。（プラスチック）
- 受注の減少、納入先の在庫調整といった状況が夏まで続くと思われる。運賃、人件費、電気料金等の上昇が見込まれる中で、厳しい状況が続くと思われる。（プラスチック）
- 人材確保のため、大幅なベースアップを予定している。（プラスチック）
- 通年製品の販売がピークを迎えるが、冬物に比べ売上や利益には反映されにくい。（ゴム製品）
- 原材料費や光熱費の高騰、人材不足が続く。（ゴム製品）
- 不透明感が強い。（その他繊維製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

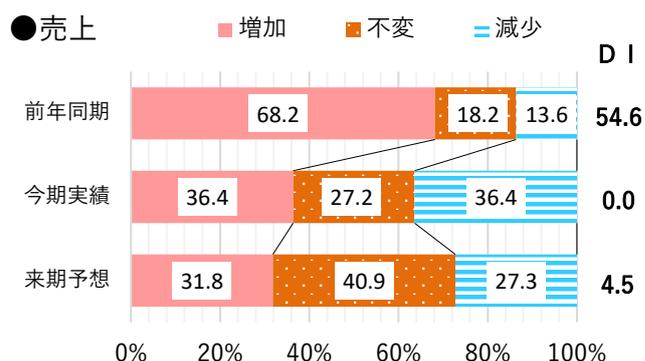
今期(2024.1~3)の業況判断DIは9.1で、前年同期(2023.1~3)と比べ18.2ポイント低下しました。

来期(2024.4~6)は、業況がマイナスに転じると予想しています。



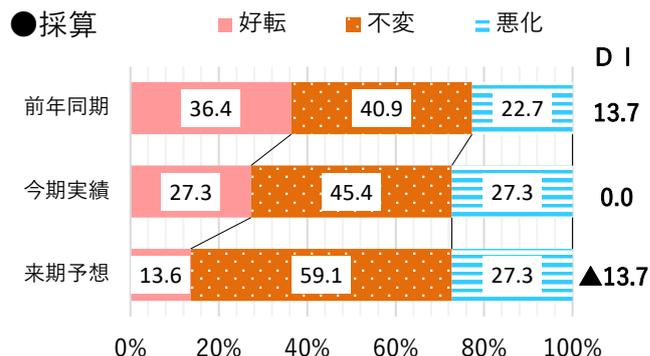
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ54.6ポイントと大幅に低下しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

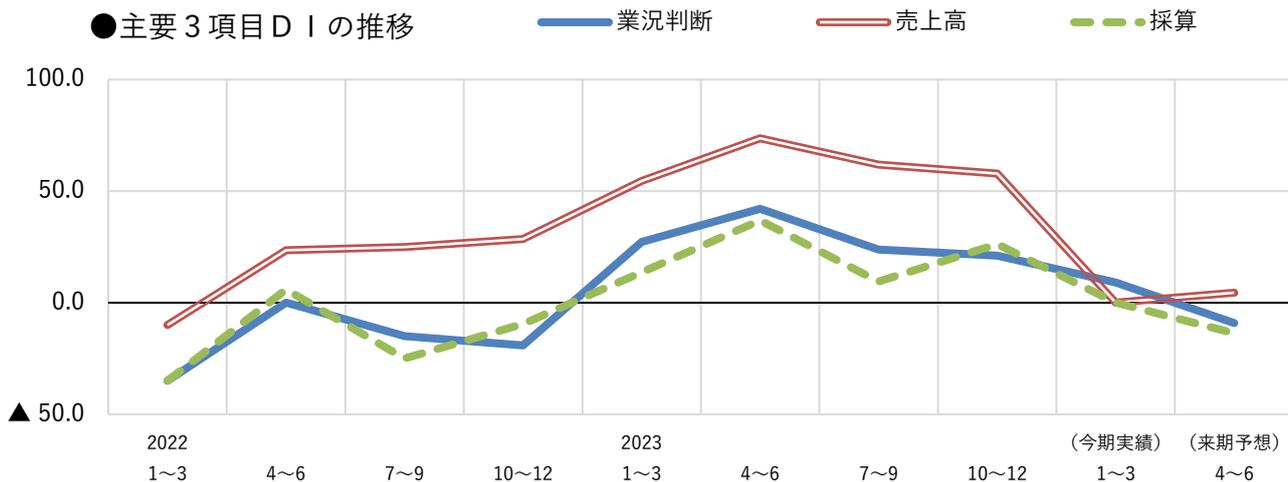


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



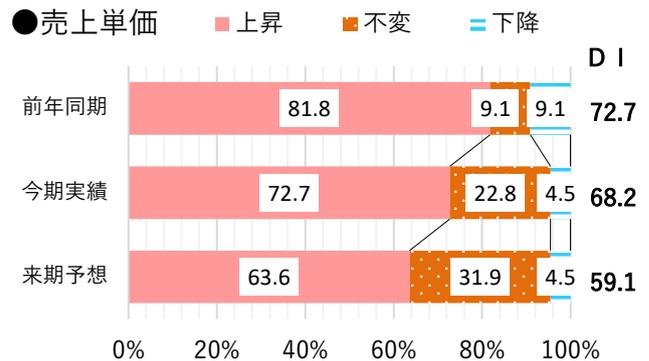
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

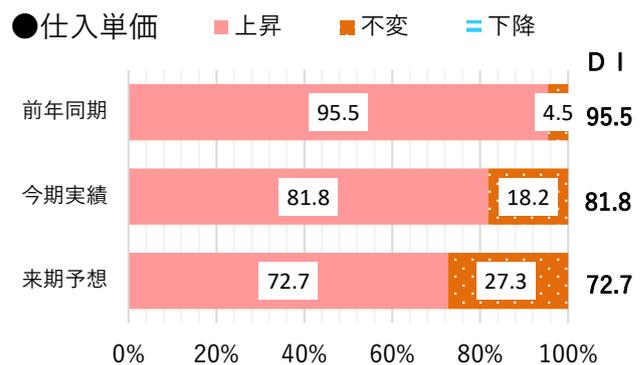
今期の売上単価DIは68.2で、前年同期と比べ4.5ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは81.8で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

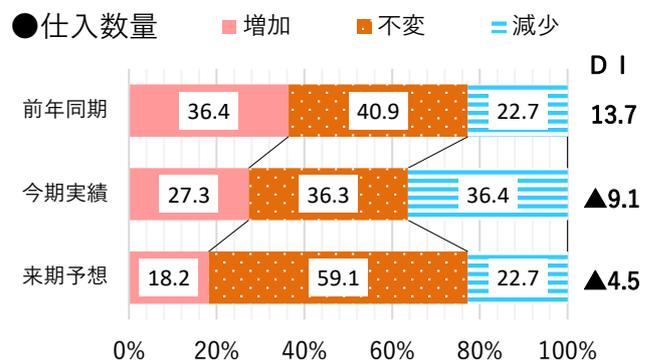
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

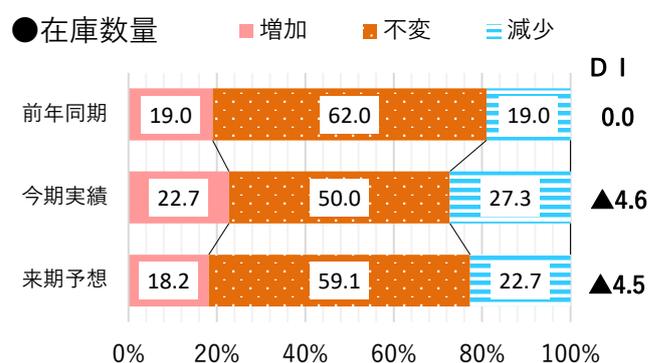
今期の仕入数量DIは▲9.1で、前年同期と比べ22.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、仕入数量に大きな変化はないと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲4.6で、前年同期と比べ4.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

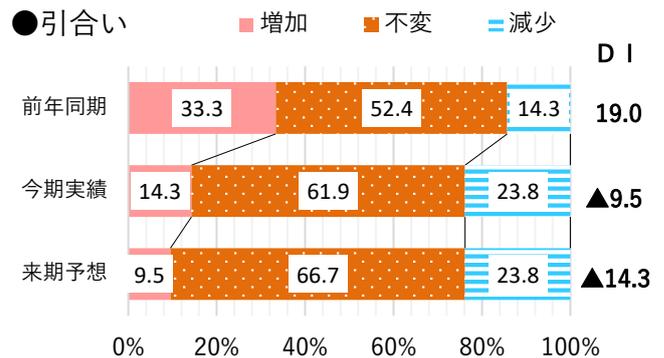
来期は、在庫数量のほぼ横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲9.5で、前年同期と比べ28.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

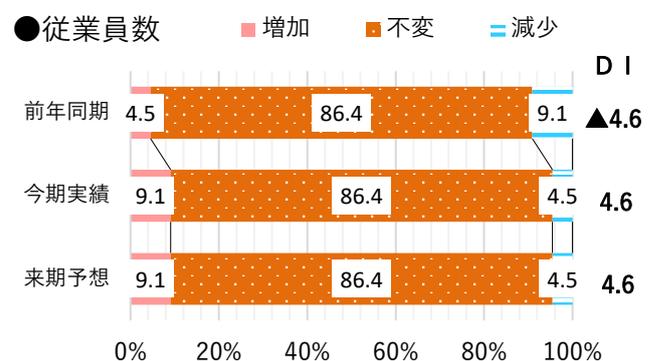
来期は、引合いの減少傾向が続くと予想しています。



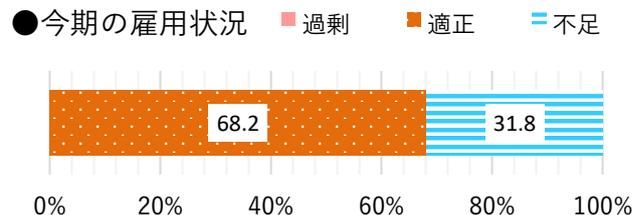
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.6で、前年同期と比べ9.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は68.2%、不足していると回答した企業の割合は31.8%でした。



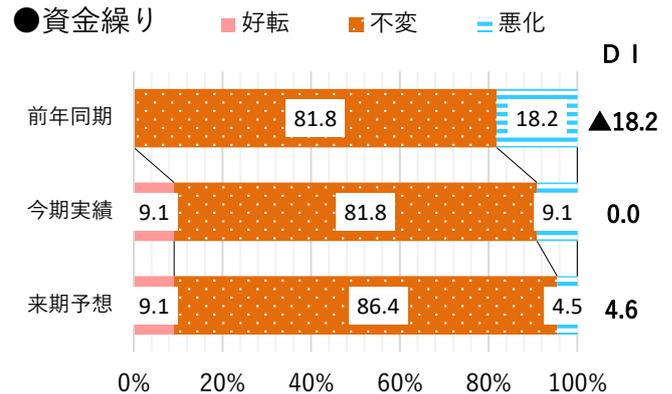
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の68.1%を占めており、不足と回答した企業は31.8%でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

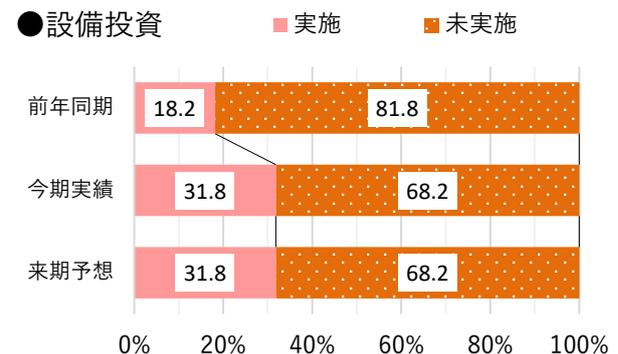
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ18.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがプラスに転じると予想しています。



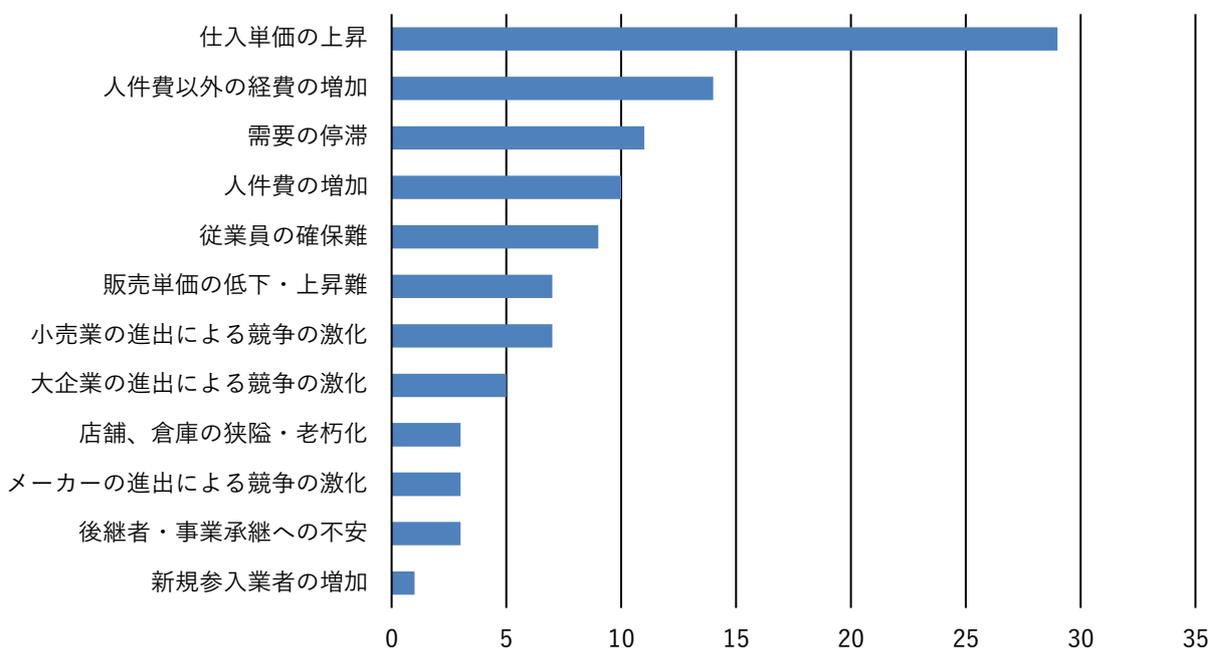
設備投資を実施した企業の割合は31.8%で、前年同期と比べ13.6%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、 「付帯施設」 (同位) でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は31.8%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 資源量の減少による原材料不足のため、業況の好転は望めない。(食料・飲料)
- 年明けに期待したが、売上は伸びなかった。冬のためか外装の売上が悪い。降雪により、車が走りやすい道路状態ではなかったことも、売上が伸び悩んだ原因だ。大手自動車メーカーの不正問題は、非常に残念に感じている。(自動車部品)
- 季節的要因により毎年春から工事が動きはじめるのだが、例年よりも動きが悪いように感じる。人件費、運搬費、燃料等、経費の高騰分を売上に反映できるかが課題だ。(建築材料)
- 北海道新幹線の札幌延伸工事関係資材の納入量が増加し、売上が増加した。(建築材料)
- 仕入価格が上昇し、販売価格への転嫁が遅れているため、利益を確保できていない。(石油)
- 価格転嫁が難しく、顧客の買い控えもあるため、売上の減少や採算の悪化が生じている。(包装資材)
- 引合いは少ないながらも、少額のものも取りこぼしの無いように取り組んだ結果、前年度並みの売上を確保できた。(鉱物・金属材料)
- 売上が増加した。(事務用品)
- 対ロシア輸出規制のため、建材、発電機、船外機、車両等の売上が減少した。(貿易業)
- 道外の引合いが多い。物価の高騰により売上が減少した。(産業用機械器具)

[来期の業況について]

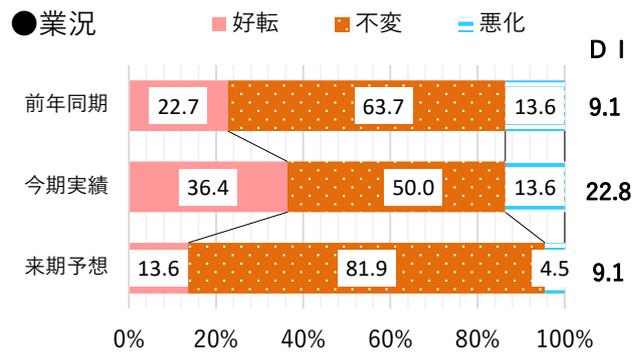
- 販売単価を引き上げるため、引合いの減少が見込まれる。(食料・飲料)
- 3～4月は車検等による繁忙期のため、頑張りたい。(自動車部品)
- 北海道新幹線の延伸工事に係る納入量の増加が続く。(建築材料)
- 価格転嫁はある程度進むが、賃金の引き上げを考えているため、業況は悪化する。(石油)
- 2024年問題もあるため、運賃の動向等、今後の見通しが立たない。(包装資材)
- 仕入価格の上昇が見込まれるが、価格転嫁できるか不透明なため、苦戦すると思われる。また、仮に転嫁できても販売量の減少は避けられない状況にある。(鉱物・金属材料)
- 売上の増加を見込む。(事務用品)
- 対ロシア輸出規制による売上の減少が続くと思われる。(貿易業)
- 物価高騰による売上の減少が続くと思われる。(産業用機械器具)

小 売 業

業況、売上、採算

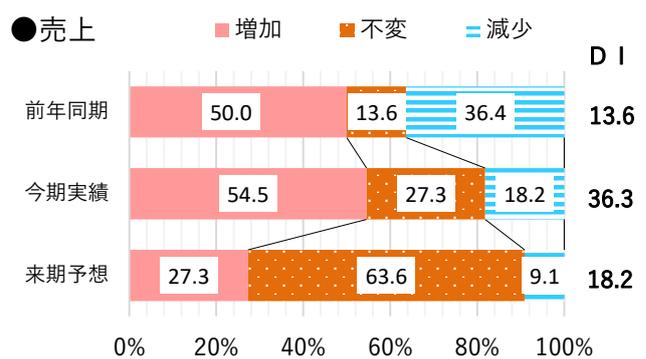
今期(2024.1~3)の業況判断DIは22.8で、前年同期(2023.1~3)と比べ13.7ポイント上昇しました。

来期(2024.4~6)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



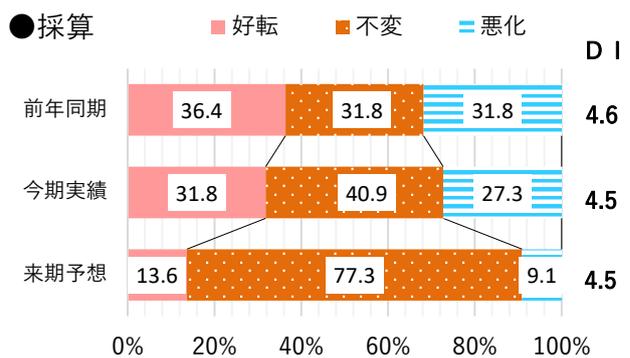
今期の売上高DIは36.3で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

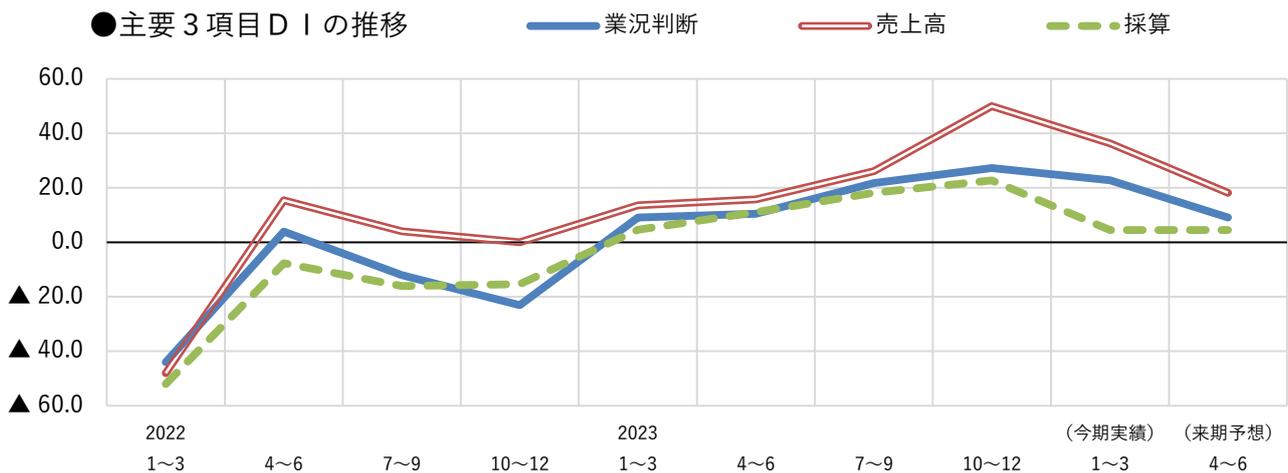


今期の採算DIは4.5で、前年同期と比べ0.1ポイント低下しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



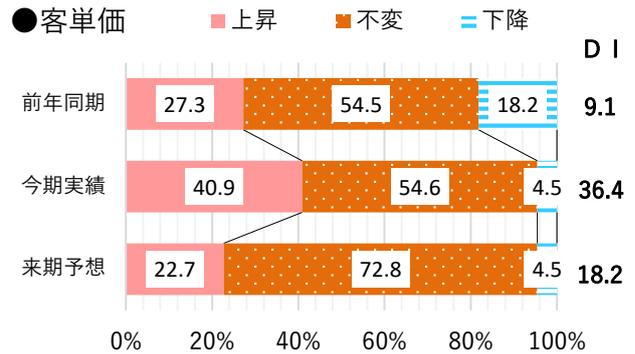
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

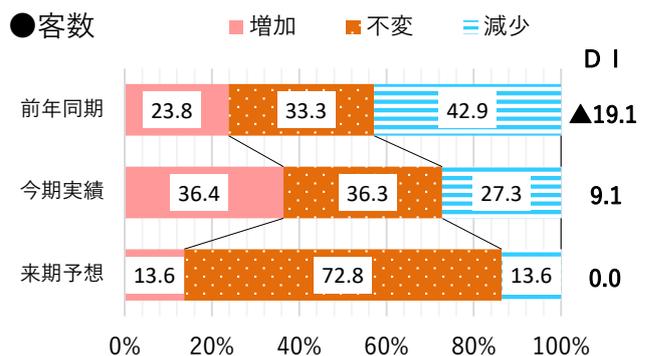
今期の客単価DIは36.4で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは9.1で、前年同期と比べ28.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

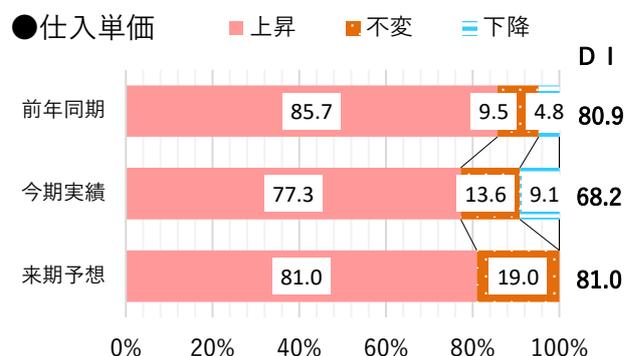
来期は、客数の増加傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

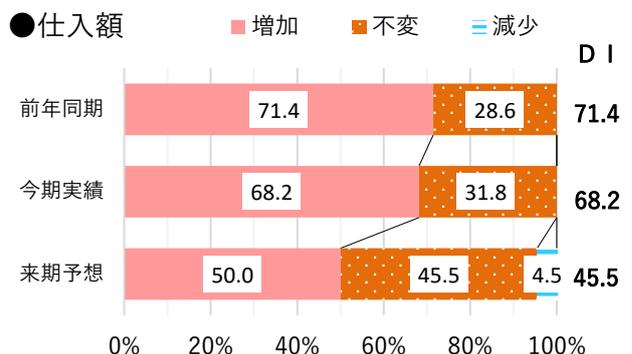
今期の仕入単価DIは68.2で、前年同期と比べ12.7ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



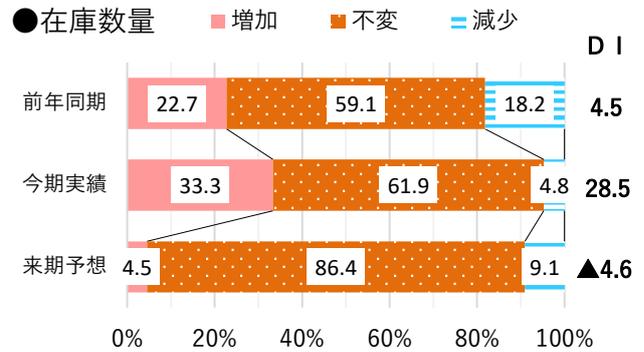
今期の仕入額DIは68.2で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは28.5で、前年同期と比べ24.0ポイントと大幅に上昇しました。

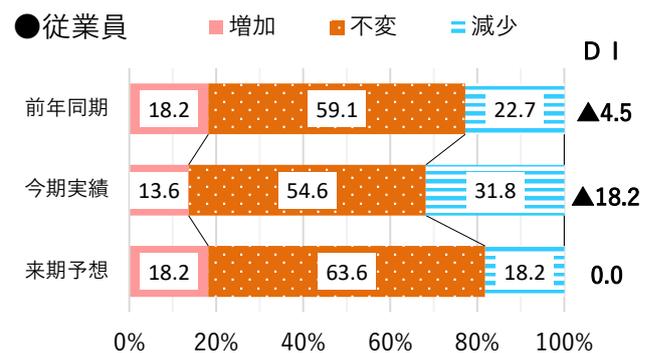
来期は、在庫数量が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



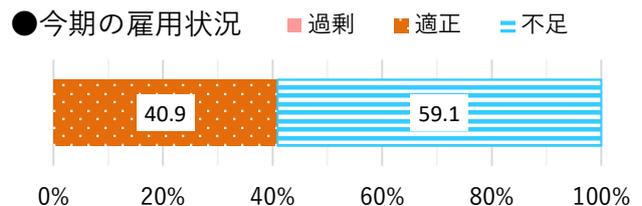
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲18.2で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は40.9%、不足していると回答した企業の割合は59.1%でした。



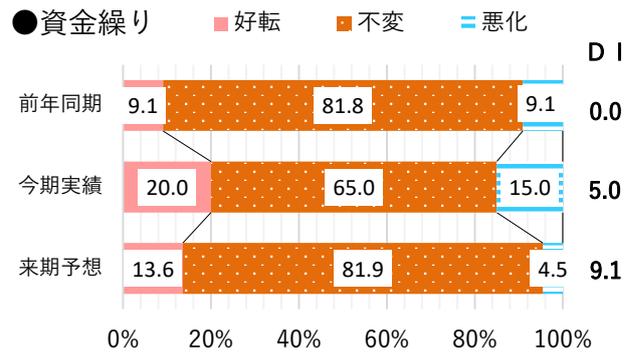
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、27.2%を占めており、59.1%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

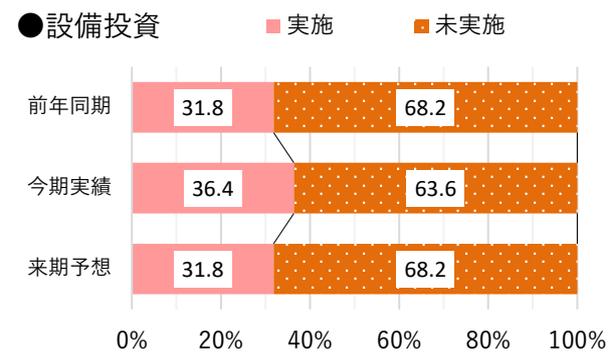
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ5.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



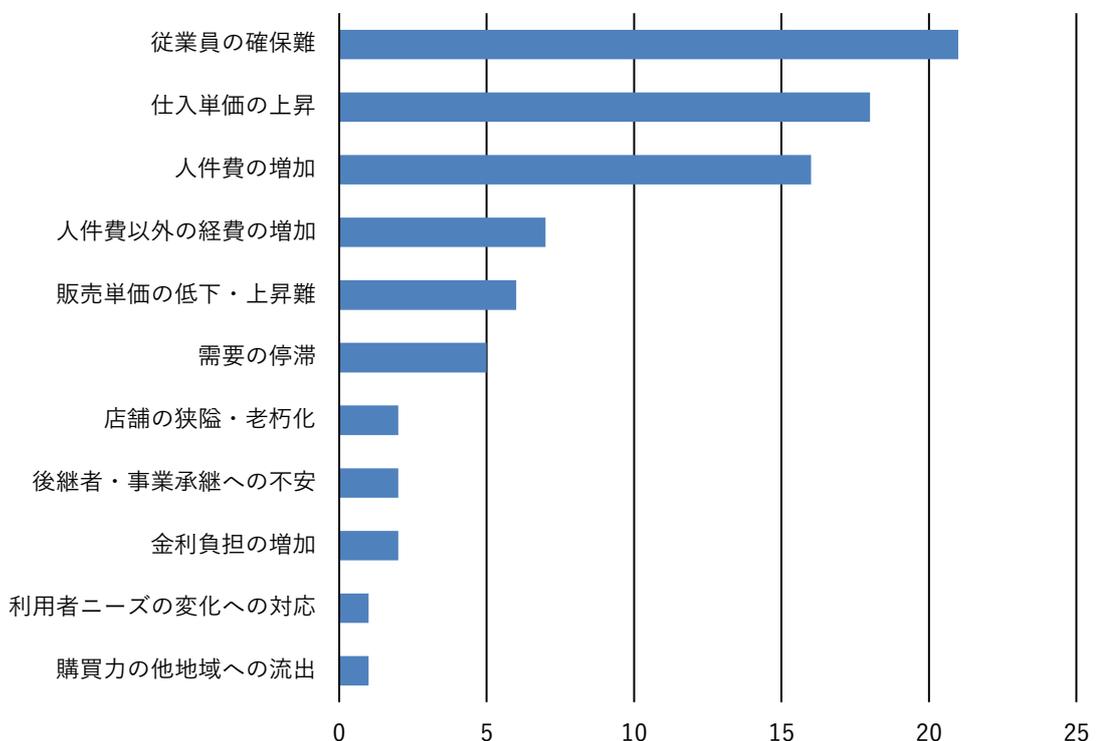
設備投資を実施した企業の割合は36.4%で、前年同期と比べ4.6%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、「付帯施設」（同位）、2位が「土地」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は31.8%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- ディスカウント形態の小売店と価格差が無くなったと感じる。自店も対策価格（EDLP等）で価格差を無くし、売上を確保している。差別化のため、高単価帯で味の良い魅力ある商品構成を行う。（大型店）
- ※EDLP(EveryDay Low Price)：特売等の値下げを行わず、毎日低価格で販売する戦略
- 商品単価の上昇に比例して、売上を伸ばせている。時給の引き上げ等でパート雇用を促進しているが、確保につながらず、今後の課題だ。（大型店）
- 米の原価が予想以上に上昇した。（食料品）
- 売上の伸び悩み、仕入価格の上昇により業況が悪化した。人材確保もうまくいかなかった。（食肉）
- 原材料、包装資材の値上げが収まらない。（菓子製造小売）
- 仕事内容の細分化に合わせて人材を確保し、効率が上がったことで、粗利益が増加した。（自動車）
- 需給が安定せず、注文数を確保できない。（自動車）
- メーカー在庫を安価で仕入れ、特売を実行したことで業況が好転した。（衣服・身の回り品）
- 材料等の値上がりで、利益が減少した。（衣服・身の回り品）
- 昨年7月末から、猛暑と暖冬によりエアコン取り付け需要が大きく伸びているが、客数は減少した。今年度の従業員数は適正だが、周辺企業が時給を引き上げたこともあり、来年度は不足する。（家電量販店）
- 気象庁から2024年度夏の猛暑予報が出ており、季節商品を準備するお客様によって売上が増える状況は2年前と似ているが、客数は減少傾向にあり、客単価の上昇が課題だ。（家電量販店）
- 通常は原油価格に左右されるが、政府補助金が出ている関係で業況の判断が難しい。（燃料）
- 売上が減少した。（燃料）

[来期の業況について]

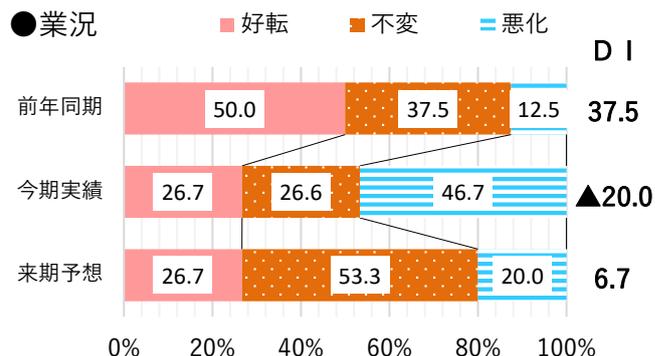
- 今期はコロナ禍が明け、インバウンド、国内観光客の増加により業況が好転したが、来期予測は難しい。人材不足は続くと予想されるため、現在の人員の賃金アップ含め人材の囲い込みに取り組む。（大型店）
- 物価の高騰は続く見込みだ。人件費の高騰もあることから、経費管理を見直す必要がある。（大型店）
- 観光の景況感は横ばいで、米などの仕入単価は高止まりを予想する。（食料品）
- 仕入価格の上昇に合わせ、売上も同じ歩調で伸ばしたい。（食肉）
- 4月は人件費を引き上げる必要があるため、経費の上昇を見込む。人件費を引き上げた分の利益を確保しなければならぬため、その後はさらに経費を見直さなければならないと思う。（菓子製造小売）
- 価格転嫁を実施する予定だが、効果は翌期以降になる見通しだ。（自動車）
- 需給状況の改善にはもう少し時間を要する。（自動車）
- 不安定要因があり、読みきれない。（自動車）
- 小売や物販の市況が悪化する。観光以外は伸び悩むと思う。（衣服・身の回り品）
- 4月から値上げを実施する。景況感は好転すると思われる。（衣服・身の回り品）
- 季節商品の売上を中心として業績を上げられると思うが、客数は減少傾向のため、一世帯あたりの客単価の引き上げが目標となる。（家電量販店）
- 人材不足のため、時給の引き上げが必要だと考えている。（家電量販店）
- 人手不足が見込まれる。売上はあまり期待できない。（コンビニ）
- 今期に引き続き、仕入価格の上昇を見込む。（燃料）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

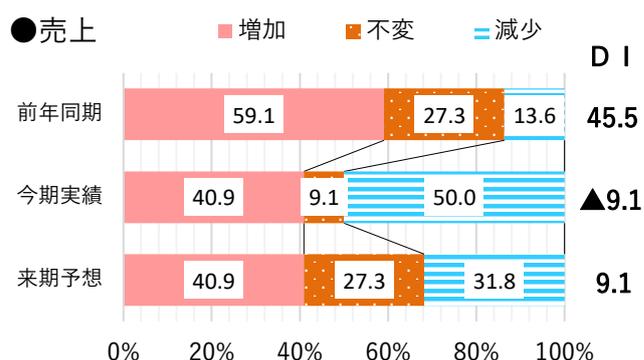
今期（2024.1～3）の業況判断DIは▲20.0で、前年同期（2023.1～3）と比べ57.5ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期（2024.4～6）は、業況がプラスに転じると予想しています。



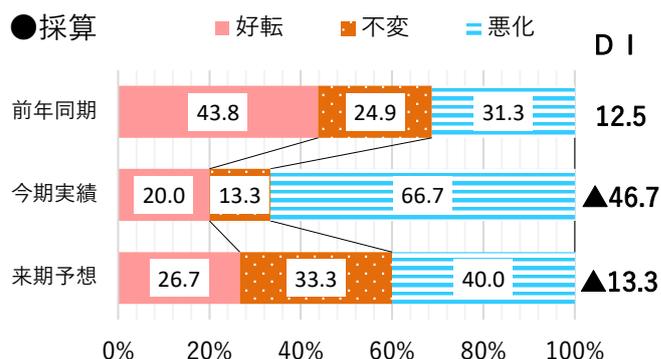
今期の売上高DIは▲9.1で、前年同期と比べ54.6ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

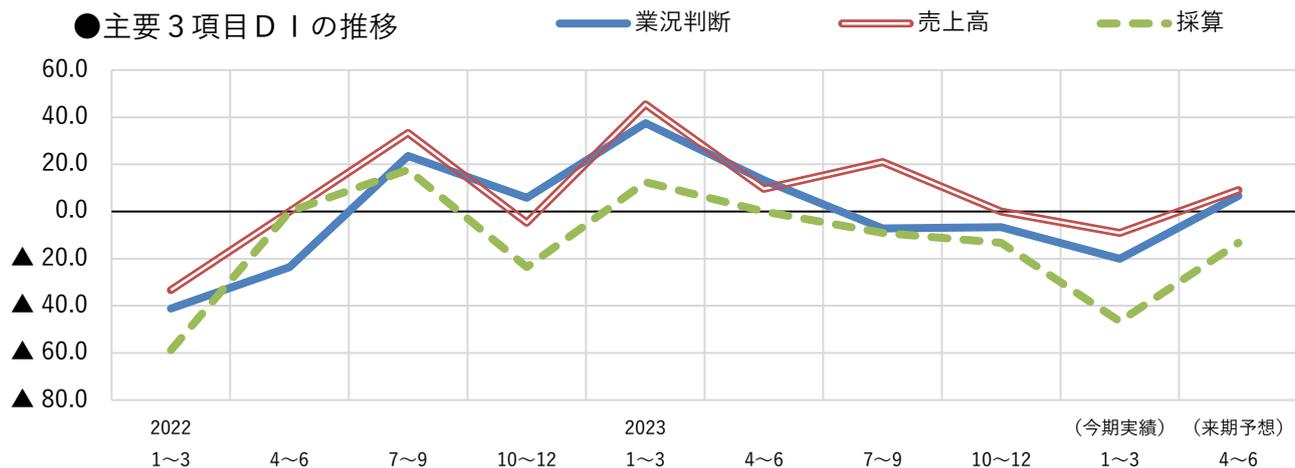


今期の採算DIは▲46.7で、前年同期と比べ59.2ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



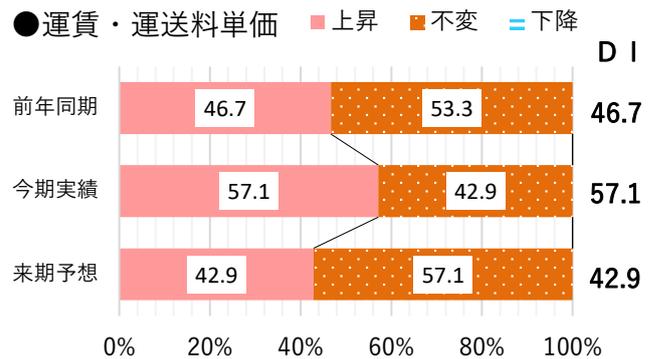
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

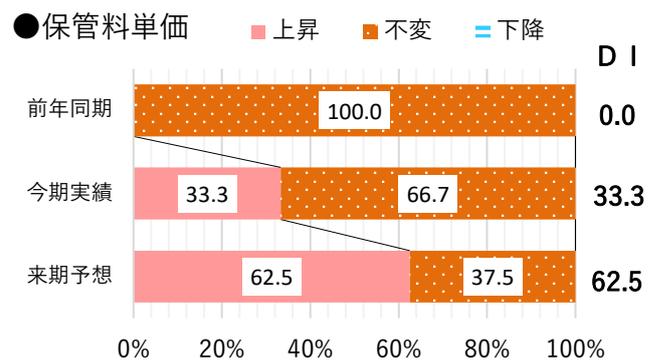
今期の運賃・運送料単価DIは57.1で、前年同期と比べ10.4ポイント上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは33.3で、前年同期と比べ33.3ポイントと大幅に上昇しました。

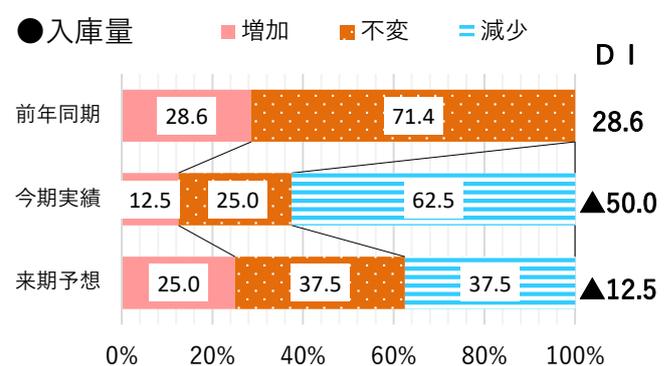
来期は、保管料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

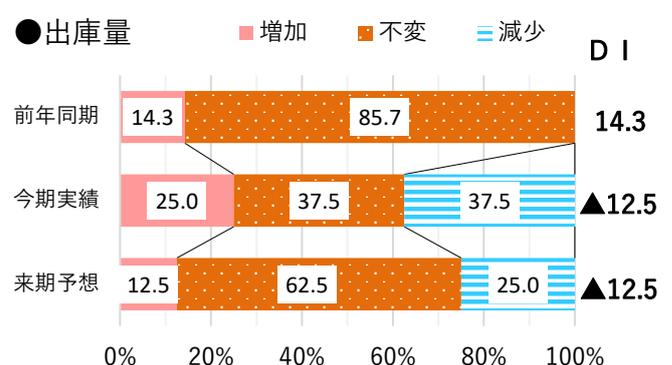
今期の入庫量DIは▲50.0で、前年同期と比べ78.6ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



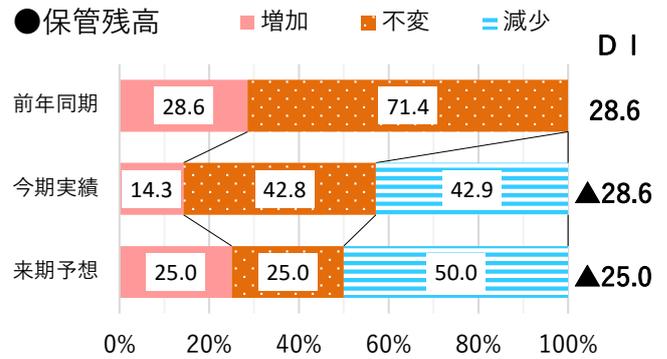
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ26.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、出庫量の横ばいを予想しています。



今期の保管残高DIは▲28.6で、前年同期と比べ57.2ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

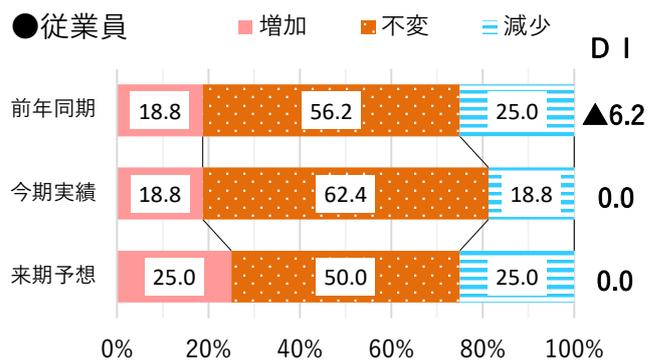
来期は、保管残高の減少傾向が続くと予想しています。



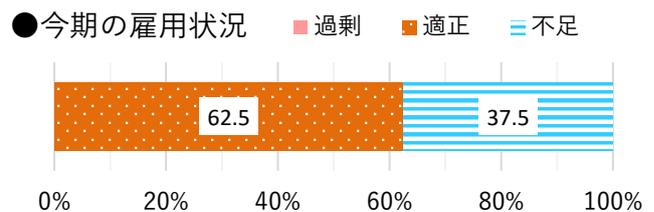
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は62.5%、不足していると回答した企業の割合は37.5%でした。



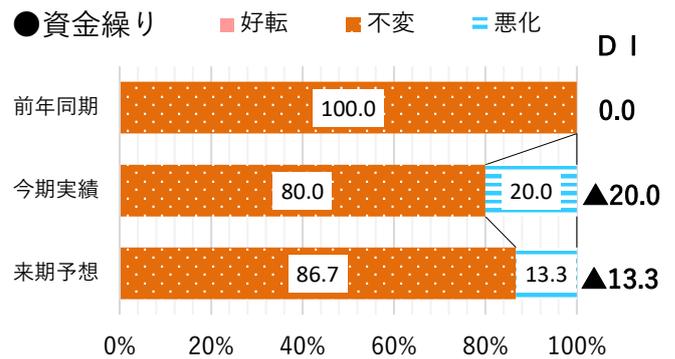
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、56.2%を占めました。37.5%の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

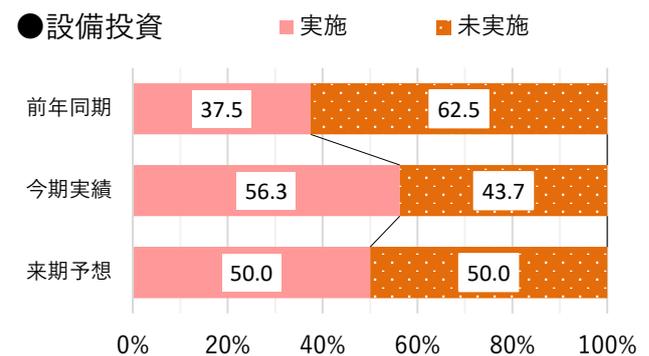
今期の資金繰りDIは▲20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



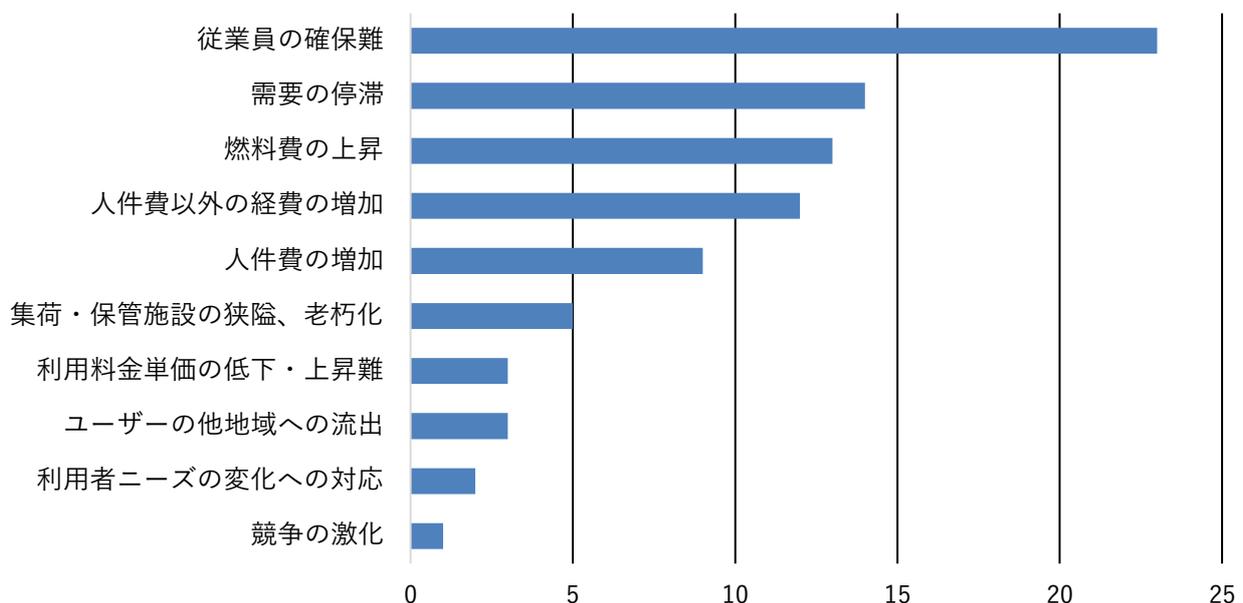
設備投資を実施した企業の割合は56.3%で、前年同期と比べ18.8%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、3位が「燃料費の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 受注貨物の減少により運送、倉庫ともに売上、差益が減少した。（道路貨物運送）
- 市況は好転しているが、人件費、燃料費の高騰により利益を計上できていない。社員の確保が難しく、売上を十分に伸ばせていない。（道路旅客運送）
- 高齢者の退職等により、人材確保が難しかった。（道路旅客運送）
- 売上が増加した。（道路旅客運送）
- 農産物の取扱量が減少しており、保管量、運送量ともに減少した。（倉庫）
- 入庫量が減少し、出庫量が増加した。（倉庫）
- ロシアへの輸出規制や、中国への水産品の輸出規制で業績が悪化した。（港湾運送）
- 能登半島地震の影響もあり、支援車両、人員等の特需はあるものの、物価高騰による買い控えで、物流が減少している。旅客はコロナ禍での移動制限がなく、震災支援もあり増加した。（水運）

[来期の業況について]

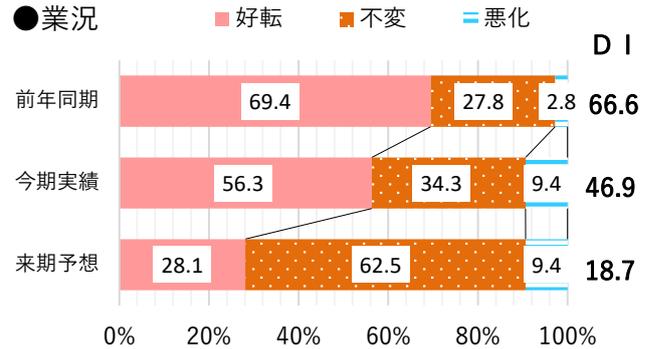
- 来期に向けて業況が好転する話もなく、小樽市内では大手飼料工場の生産停止も伝えられ、影響は少なからず考えられる。（道路貨物運送）
- 引き続き市況の好転を見込むが、経費高騰や人材確保が課題となる。（道路旅客運送）
- 高齢者の退職による人材不足が続くと思われる。（道路旅客運送）
- 入庫量の増加が見込まれる。（倉庫）
- 取扱量の減少が続く。（倉庫）
- 市内の飼料工場閉鎖に伴う原料入庫量の減少を予想する。（港湾運送）
- 定期検査で減便となるが、貨物は消費の回復や、能登への支援等が増えれば増加となりうる。コロナ禍による行動制限がなく、震災への支援もあり増加が見込まれる。燃料価格は、政府による補助金の動向が不透明なため、予測できない。また、2024年問題による需要への影響も分からない。（水運）

観光業

業況、売上、採算

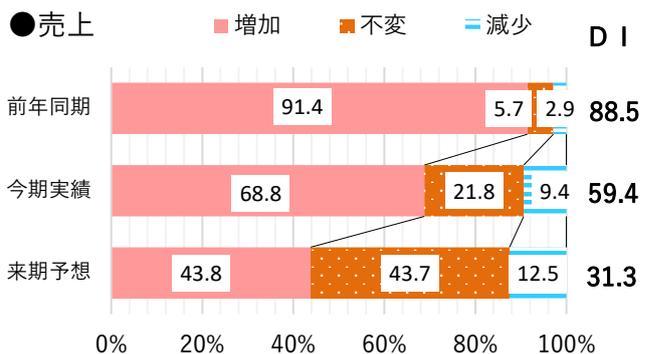
今期（2024.1～3）の業況判断DIは46.9で、前年同期（2023.1～3）と比べ19.7ポイント低下しました。

来期（2024.4～6）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



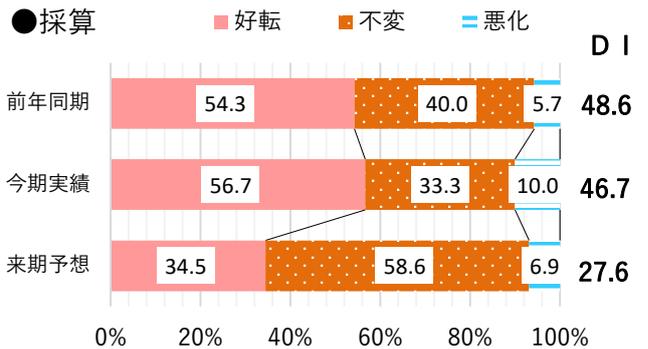
今期の売上DIは59.4で、前年同期と比べ29.1ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

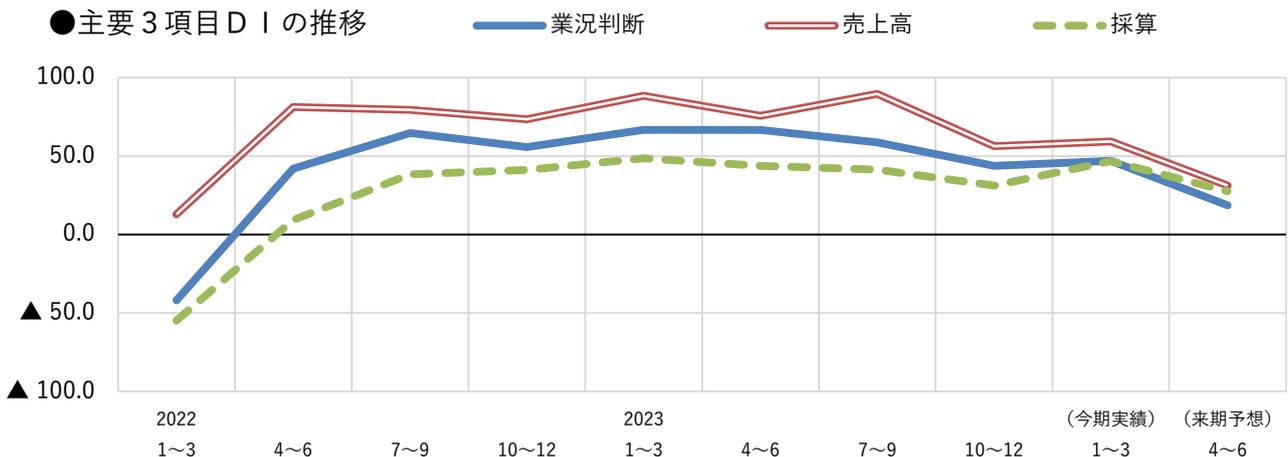


今期の採算DIは46.7で、前年同期と比べ1.9ポイント低下しました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



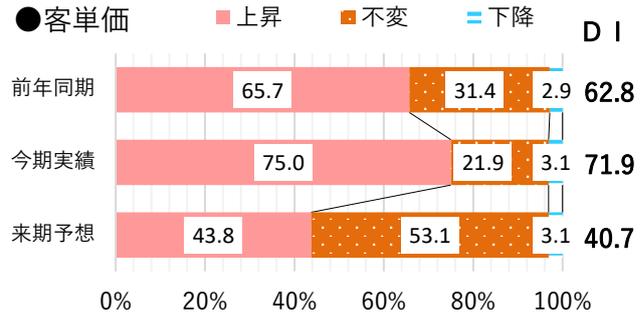
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

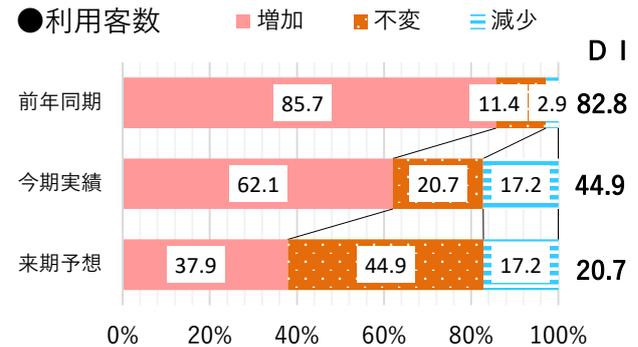
今期の客単価DIは71.9で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



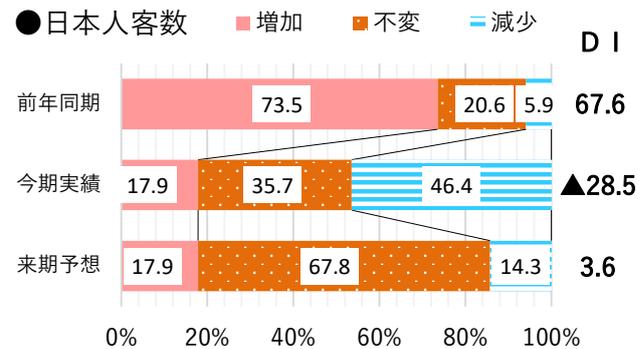
今期の利用客数DIは44.9で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



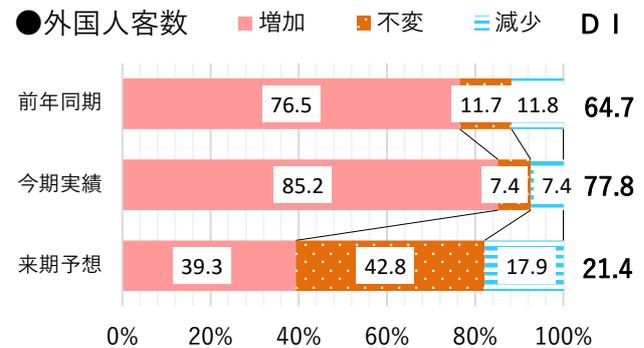
今期の日本人客数DIは▲28.5で、前年同期と比べ96.1ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、日本人客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは77.8で、前年同期と比べ13.1ポイント上昇しました。

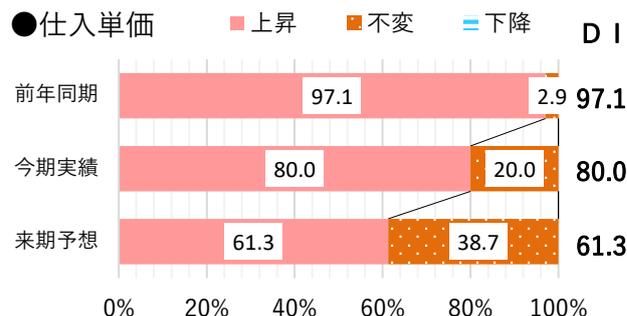
来期は、外国人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ17.1ポイント低下しました。

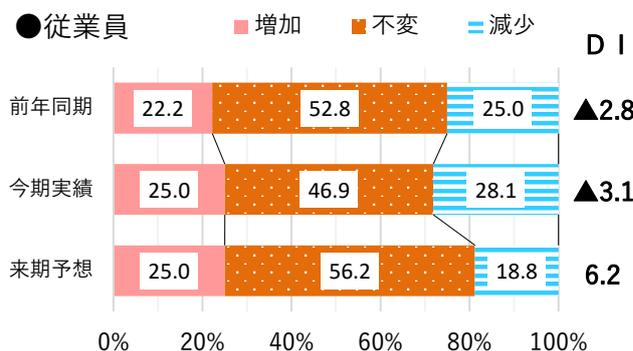
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



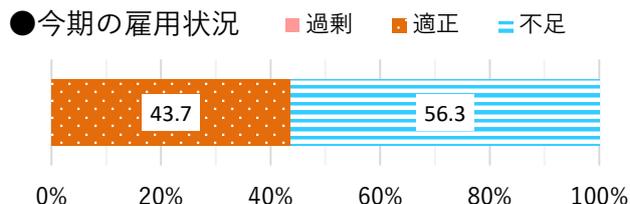
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲3.1で、前年同期と比べ0.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は43.7%、不足していると回答した企業の割合は56.3%でした。



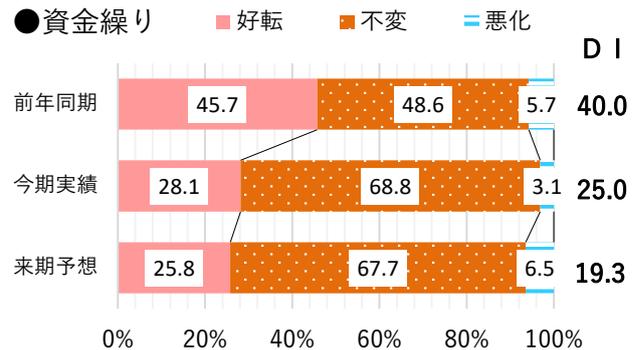
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、28.1%を占めました。回答全体では56.3%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	9

資金繰り、設備投資

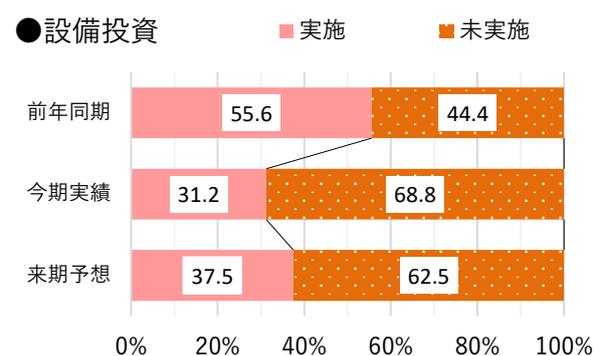
今期の資金繰りDIは25.0で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は31.2%で、前年同期と比べて24.4%低下しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、増加を予想しています。

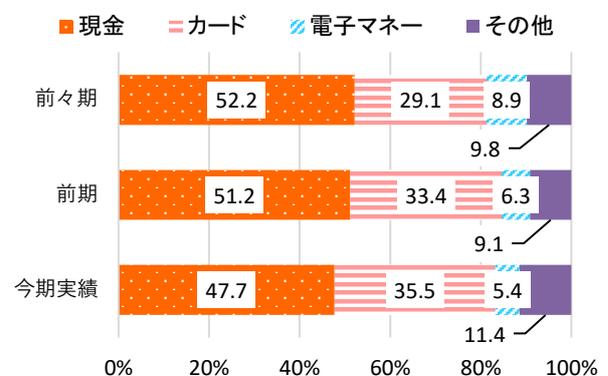


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で47.7%、2位がカードで35.5%、3位がその他で11.4%、4位が電子マネーで5.4%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、オンライン決済、QRコード決済、バーコード決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

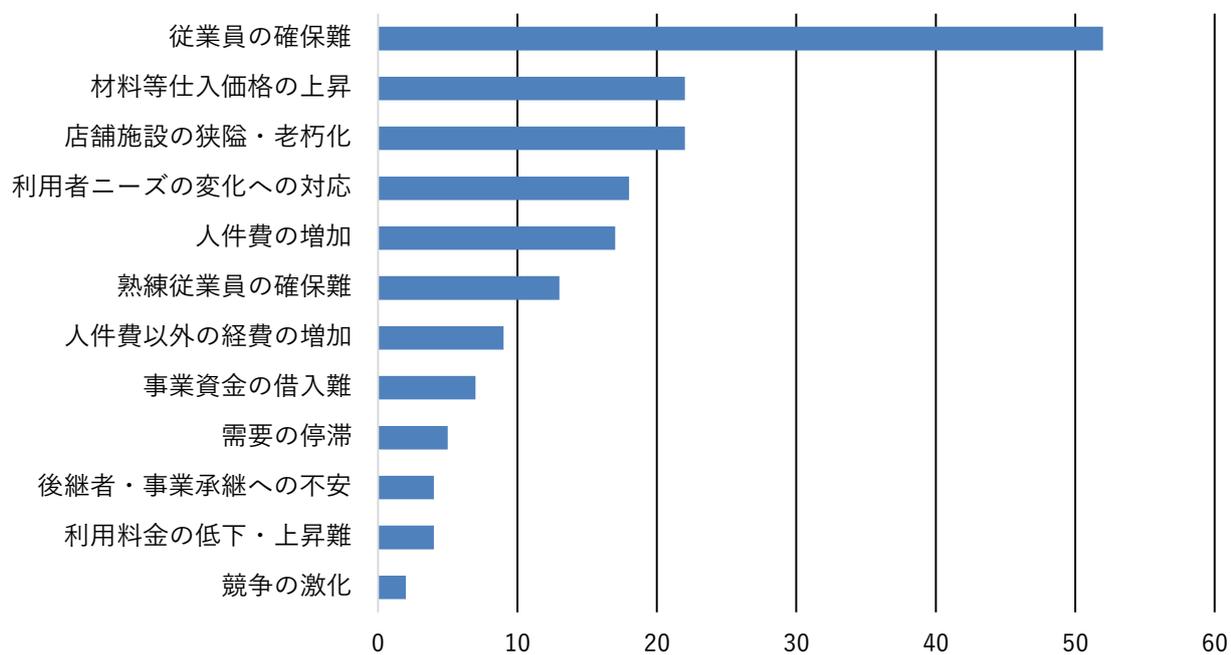


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は76.2%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、「店舗施設の狭隘・老朽化」（同位）、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 行動制限の解除以降の業況が一服した。外国人客数は韓国、台湾、香港を中心に安定していて、購入単価も高止まりしているが、勢いが徐々に無くなっている。日本人客はインフレなどの影響で、支出や客数が急速に減少しており活気が無い。外国人と日本人の消費行動に大きな差がある。人手不足が長く続いており、苦慮している。コロナ禍による不況の影響が残ったまま、賃上げの機運が高まっており、収益性を高めて安定した資金繰り体制を構築しないと、経営が不安定になる危険性を強く感じている。（土産品）
- 昨年もインバウンドが増えていたが、今年はコロナ禍前と同じ水準まで回復したように思う。（土産品）
- インバウンドを含む観光需要の回復により、売上高は好調に推移している。（土産品）
- 前年同期比で売上額と仕入額が20%増加し、利益も増加した。（土産品）
- インバウンドによる売上が増加し、客単価も上昇した。（土産品）
- 利用客の47%がインバウンドだった。（飲食店）
- インバウンドの需要が増加した。（飲食店）
- インバウンド需要により売上が増加した。仕入単価は物流価格の上昇により増加した。人材は職場環境の構築により増員した。最低賃金の見直しは行っていないが、派遣社員や日雇いのバイトなどを活用して人員確保に努めた。（ホテル）
- インバウンドの回復によりウインターシーズンの客単価が大幅に上昇した。人材は募集をかけても獲得できず、不足が続いている。（ホテル）
- 小樽を訪れる日本人観光客やインバウンドが回復し、売上が増加した。（ホテル）
- 韓国、台湾を中心に、インバウンドの団体旅行客の増加が著しい。（ホテル）
- インバウンドの需要により、売上が増加した。（ホテル）
- 仕入価格が上昇した。（ホテル）
- インバウンドと連泊客の増加により、客単価と利益率が上昇した。（コテージ・ペンション）

- インバウンドが極端に増加した。（社会教育）
- 仕入価格と工賃の単価が上昇している。（レンタカー）
- インバウンドの利用が好調だった。（レンタカー）
- 売上高は前期比で若干増加した。仕入価格、コストは上昇傾向にあるが、黒字化できそうだ。（娯楽業）
- 売上、利用客ともに増加している。（水運業）

[来期の業況について]

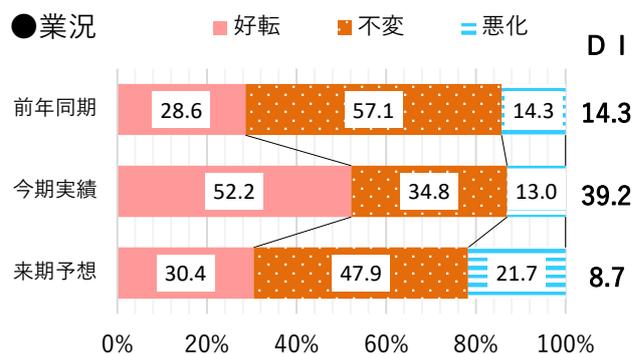
- 引き続き外国人客頼みの経営となる。高単価の商品の提供をより一層押し進める。日本人客はインフレ、賃上げなどの問題が解決し、状況が安定するまで期待薄だ。外国人客が今後も安定して来るかどうか、何の保証もなく、観光産業の脆弱性も懸念している。1年前から中国人観光客の回復を期待していたが、まだまだ時間を要するようだ。4月に賃上げの実施を予定しているが、売上の増加が見込めないで、収益性の悪化を懸念している。（土産品）
- 不透明な部分が多いが、売上アップ、新規店舗運営のため雇用を増やしたことで人件費の増加は決まっている。売上を増加させ、令和5年度より業況を良くしたいと考えている。（土産品）
- 更なるインバウンドの増加を見込み、新規雇用とサービス拡充による売上の増加を図る。（土産品）
- 今期同様、売上高が好調に推移していくものと判断する。（土産品）
- 地元のお客様、国内のお客様が増えると思われる。（飲食店）
- 引き続きインバウンド需要の増加を見込む。（飲食店）
- インバウンド需要の増加による売上の増加、物流価格の上昇による仕入価格の増加を見込む。自社雇用の促進、派遣社員や日雇バイトなどの活用による人員確保を行う。（ホテル）
- 令和5年度はコロナ禍後のリベンジ旅行や北海道の高体連など、業況の好転材料があったが、令和6年度はこれらがなく、旅行需要も大きな増加は見込めない。（ホテル）
- 韓国、シンガポール等アジアからの予約が堅調だが、清掃、調理スタッフの不足が深刻だ。（ホテル）
- 仕入価格の高騰、賃金引き上げによる経費の増加を見込む。（ホテル）
- ハイシーズンを迎えるため、好況が続くと思う。（ホテル）
- 国内需要の停滞による売上の減少を見込む。（コテージ・ペンション）
- 仕入価格と工賃の単価上昇に加え、従業員の高齢化が課題だ。（レンタカー）
- インバウンドの増加による好調が続く。（レンタカー）
- 一部利用料金を見直す事により採算は改善するが、修繕等が増加しているため、経営的には黒字の維持が精一杯だと予測する。（娯楽業）
- 今期は1年で最も閑散期にあたるため、来期は売上、利用客ともに増加が見込まれる。（水運業）

サービス業

業況、売上、採算

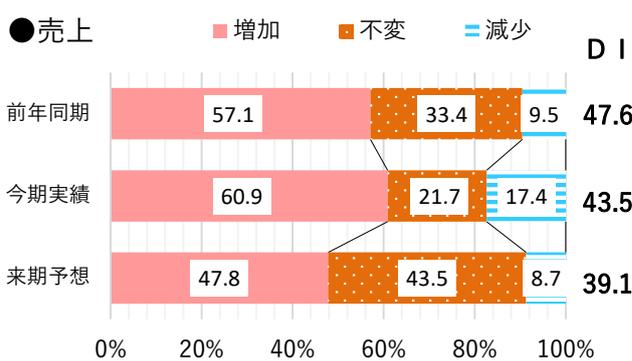
今期（2024.1～3）の業況判断DIは39.2で、前年同期（2023.1～3）と比べ24.9ポイント上昇しました。

来期（2024.4～6）は、業況の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



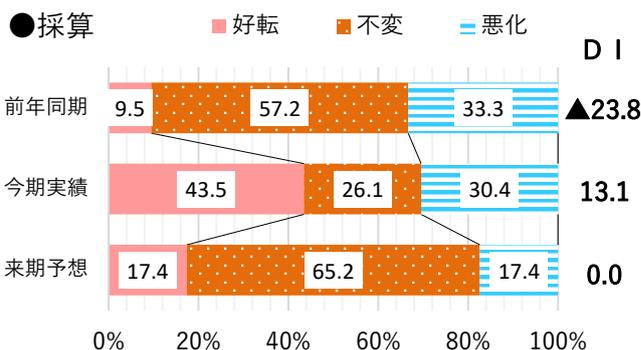
今期の売上高DIは43.5で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

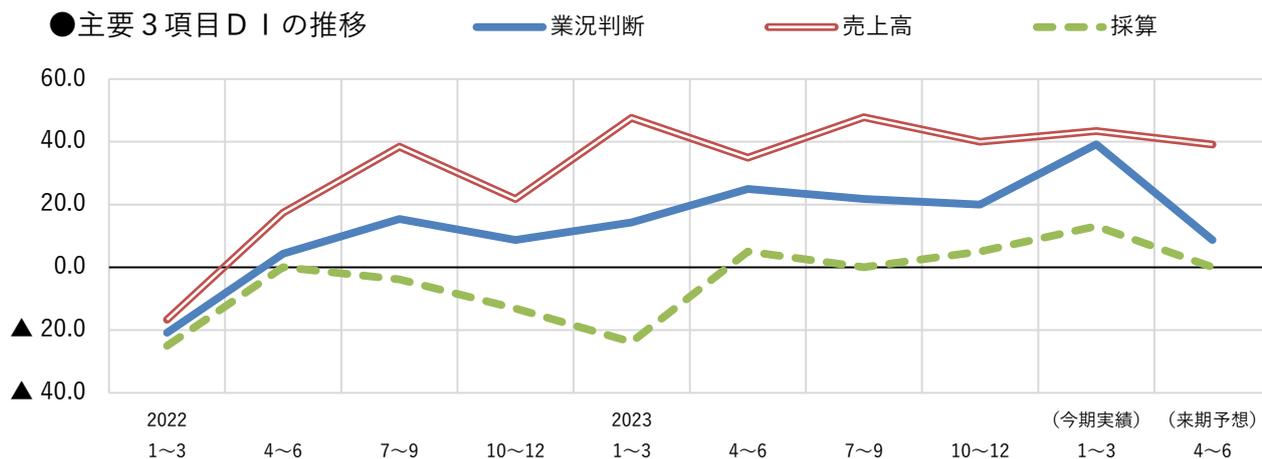


今期の採算DIは13.1で、前年同期と比べ36.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



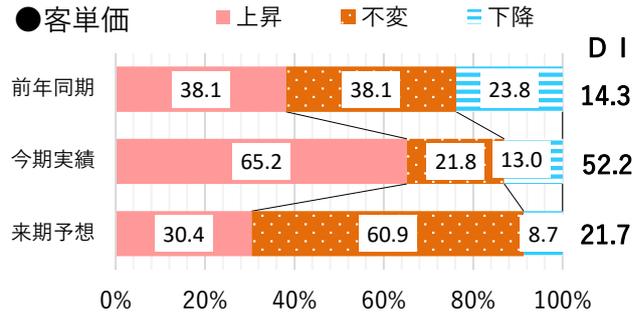
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

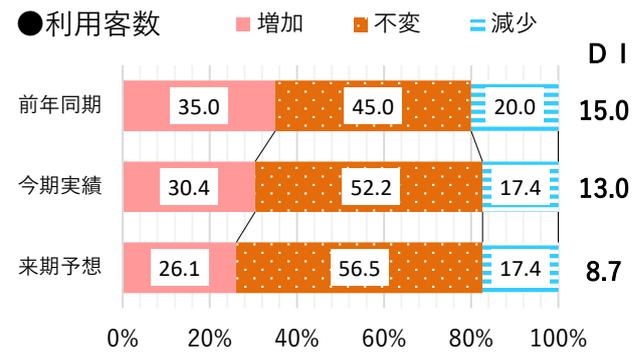
今期の客単価DIは52.2で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



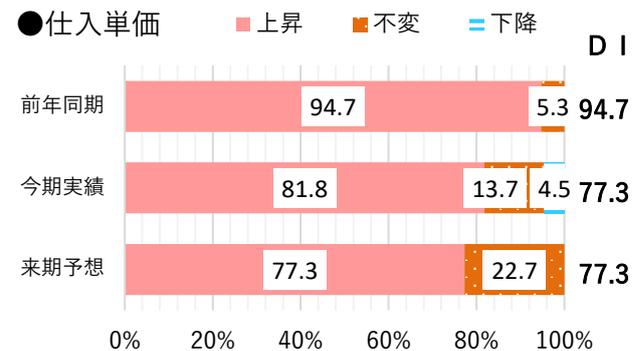
今期の利用客数DIは13.0で、前年同期と比べ2.0ポイント低下しました。

来期は、利用客数に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは77.3で、前年同期と比べ17.4ポイント低下しました。

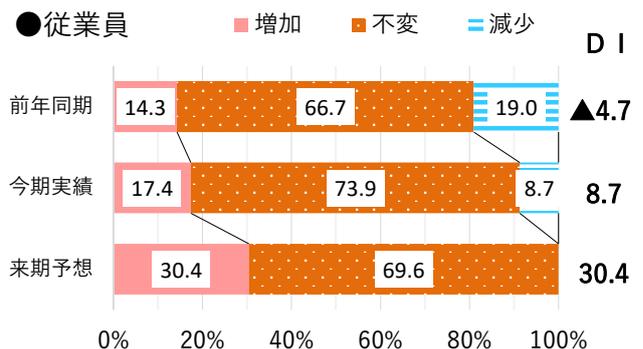
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



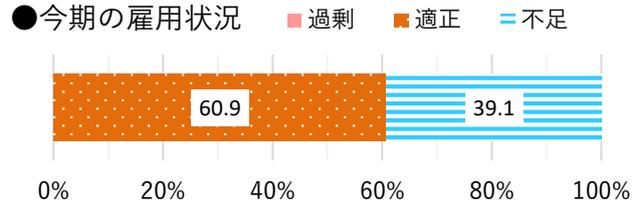
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは8.7で、前年同期と比べ13.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.9%、不足していると回答した企業の割合は39.1%でした。



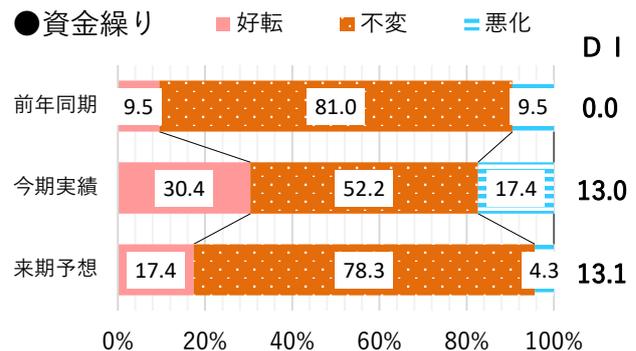
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、47.8%を占めました。回答全体では39.1%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

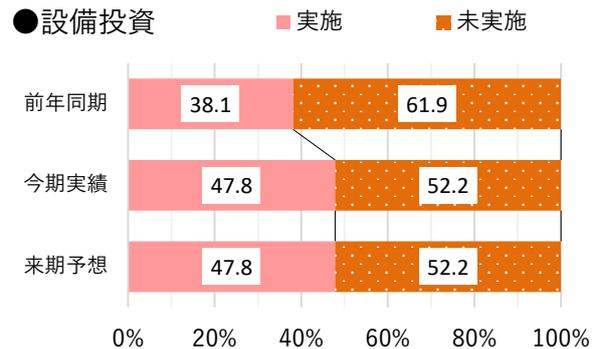
今期の資金繰りDIは13.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りのほぼ横ばいを予想しています。



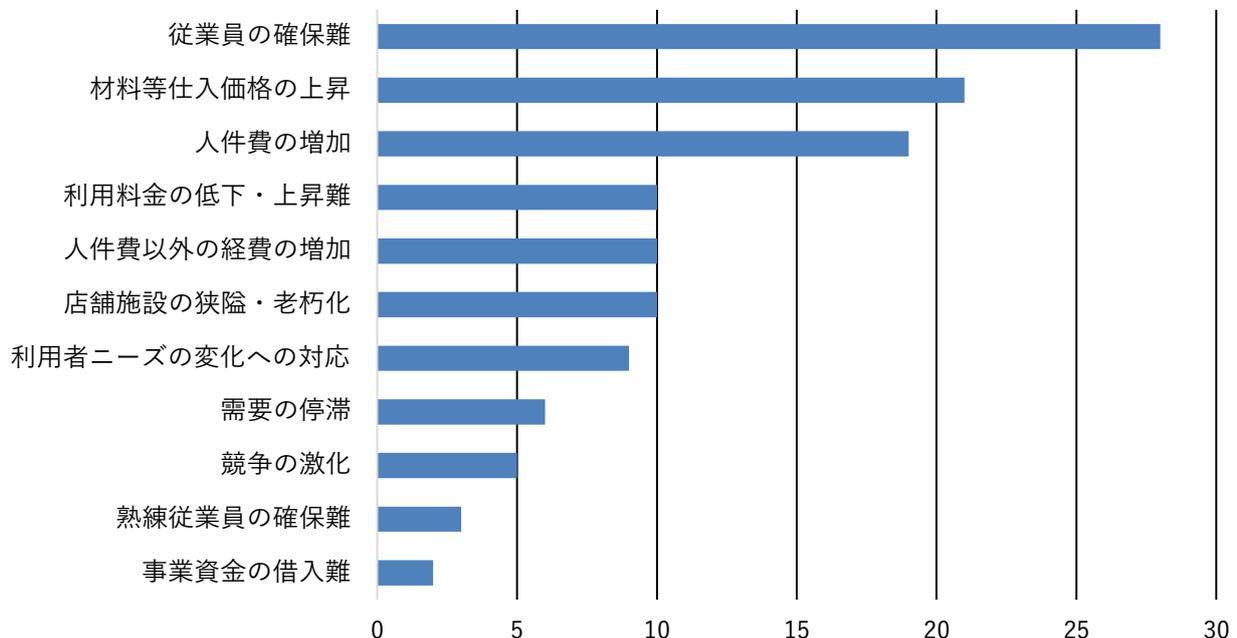
設備投資を実施した企業の割合は47.8%で、前年同期と比べ9.7%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「サービス設備」、「付帯施設」、「OA機器」、「福利厚生」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は47.8%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 観光客の利用が多いためか、客単価も上昇していると思うが、仕入価格の上昇により思ったほど利益が出ない。正社員、パート共に給与を引き上げたので、来期はメニューの値上げを予定している。(飲食店)
- 市内のお客様の減少や、宴会、会合といった集まりに参加する人数の減少が、業況に大きなマイナスとなっている。販売単価の引き上げをなかなか受け入れてもらえない。(飲食店)
- インバウンドの来店が多かった。(飲食店)
- ニーズはあるが、原材料価格の高騰や人材不足により応じられないことがある。収益では、清掃、設備関係が平行線だが、建築関係は好転している。(ビルメンテナンス)
- 観光客の増加に伴い、売上が伸びている。(ビルメンテナンス)
- 売上額が増加した。(ビルメンテナンス)
- 客数減少に伴い、売上も減少した。原材料やエネルギー価格の高騰により資金繰りは厳しい。(写真業)
- 昨年値上げを実施し、客数の減少を覚悟していたが、変わらなかったため客単価が上昇し、売上が増加した。仕入価格や賃金が上昇していたので、ゆとりができた。当分仕入価格等が高騰しても対応できると思う。3月の卒業シーズンに客数が増加した。(美容業)
- 最低賃金を引き上げた。(不動産代理・仲介業)
- 資材価格、人件費、経費の高騰はやむを得ない状況だ。顧客に対し値上げ交渉を行い、承諾をいただいているので、採算は悪化していない。当面はこの状況が続くと思われる。(各種物品賃貸業)
- 既存顧客から大きな仕事が入り、売上が増加した。仕入価格は小幅に上昇した。人材は外注で代用した。(情報処理・提供サービス業)
- 労働者不足による仕入額(ホテル代やバス代)の高騰が顕著だが、販売価格への反映ができておらず、採算が悪化した。(旅行代理店)
- 売上が増加した。従業員を採用し、適正な人員を確保した。仕入価格は上昇した。(スポーツ施設)

[来期の業況について]

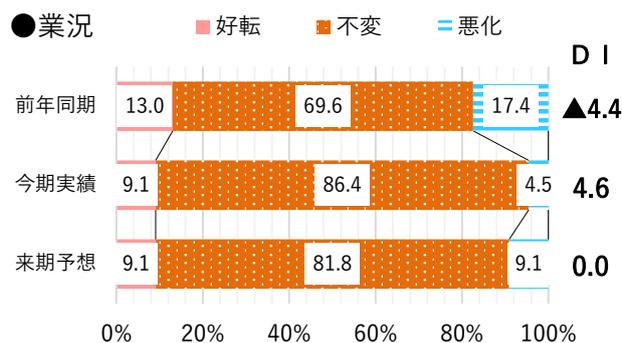
- 人員を確保してフル稼働させたいが、最低賃金+ α の給与では確保が難しい。130万円の壁によって、もっと働きたいと考えているパート従業員が働けない現状は辛い。稼ぎたい人にはどんどん稼いで消費してもらい、国の消費税収入を増やした方が、経済の好循環につながると思う。(飲食店)
- お客様の減少や、販売単価の引き上げが難しい状況が続くと思われる。(飲食店)
- 今期と変わらないと思われる。(飲食店)
- 売上は増加するが、エネルギー価格や資材価格の高騰により相殺されると考える。(ビルメンテナンス)
- 人材不足に拍車がかかり、売上等に影響が出るとと思われる。(ビルメンテナンス)
- 売上額の減少を予想する。(ビルメンテナンス)
- 新規取引先もなく、データ化の時代で厳しい。4~6月は学校行事等があるが、少子化のため、売上は減少を見込む。(写真業)
- 入学シーズンと季節の変わり目(特に6月)はいつも客数が増加傾向になる。高めのメニューを希望する方が増えるので、その分仕入価格も上昇すると思われる。人材や賃金の状況は変わらない。(美容業)
- 利用客数は大きく回復するが、経費も増大する。(不動産代理・仲介業)
- 各種経費の高騰が続く。(各種物品賃貸業)
- 新規の大口顧客が入り、売上額は増加しそうな期待がある。インフレ、円安による仕入価格、輸入価格の上昇を予想する。(情報処理・提供サービス業)
- 仕入額の高騰と採算の悪化が続くと思われる。(旅行代理店)
- 今期同様、売上の増加と仕入価格の上昇を見込む。従業員の採用を予定している。(スポーツ施設)

建設業

業況、売上、採算

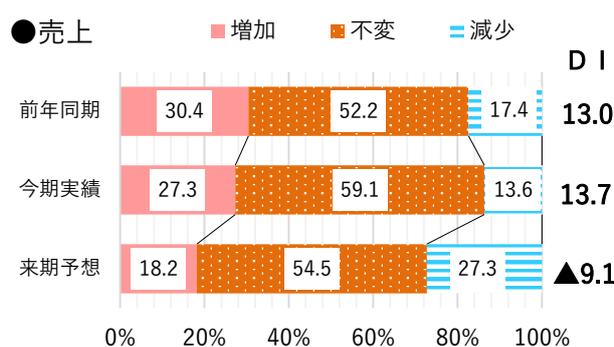
今期（2024.1～3）の業況判断DIは4.6で、前年同期(2023.1～3)と比べ9.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期（2024.4～6）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



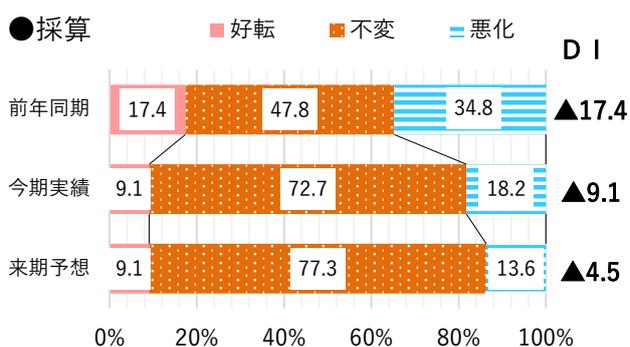
今期の売上高DIは13.7で、前年同期と比べ0.7ポイント上昇しました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

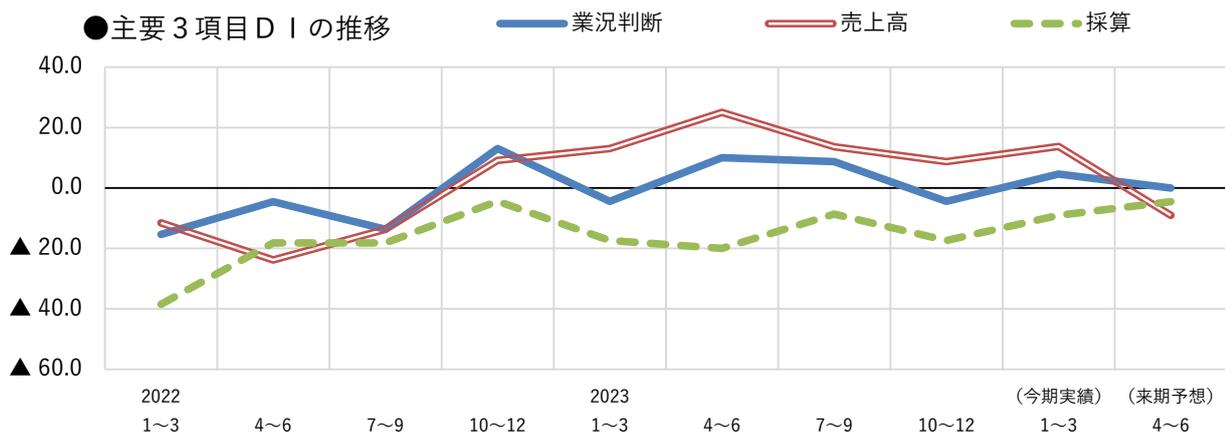


今期の採算DIは▲9.1で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



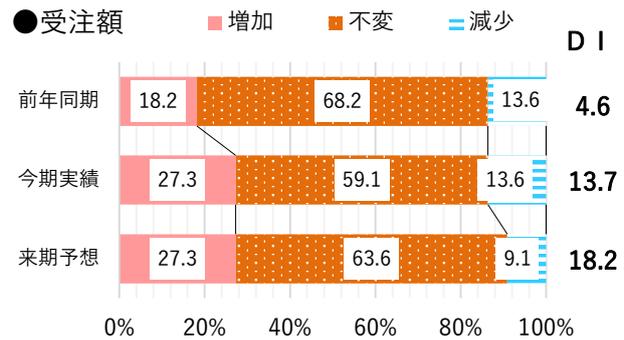
●主要3項目D Iの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

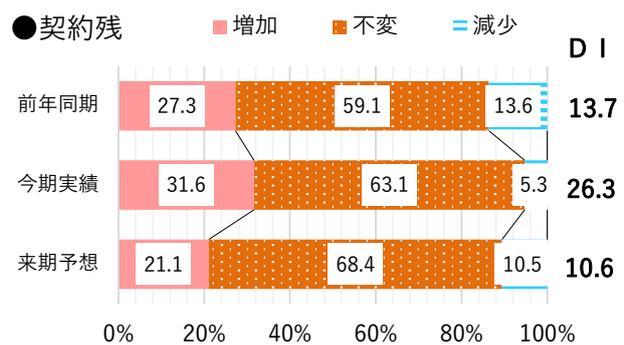
今期の受注額DIは13.7で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

来期は、受注額の増加傾向が強まると予想しています。



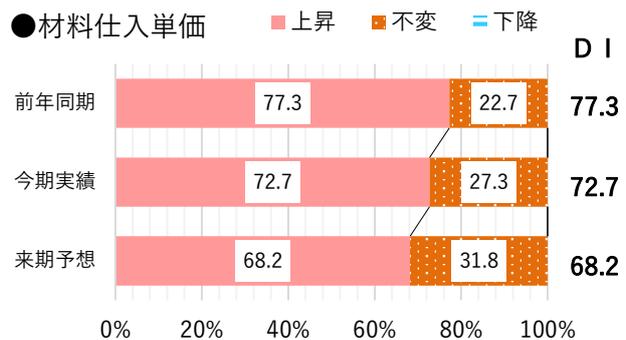
今期の契約残DIは26.3で、前年同期と比べ12.6ポイント上昇しました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.7で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

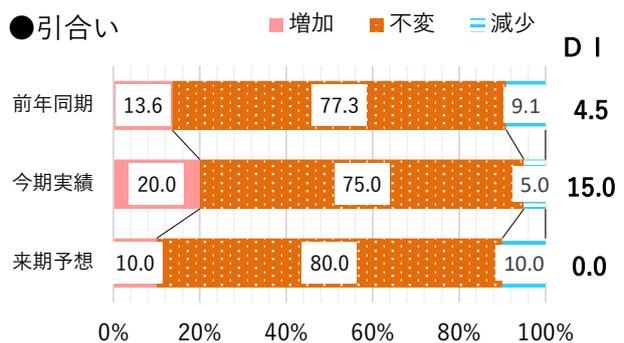
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは15.0で、前年同期と比べ10.5ポイント上昇しました。

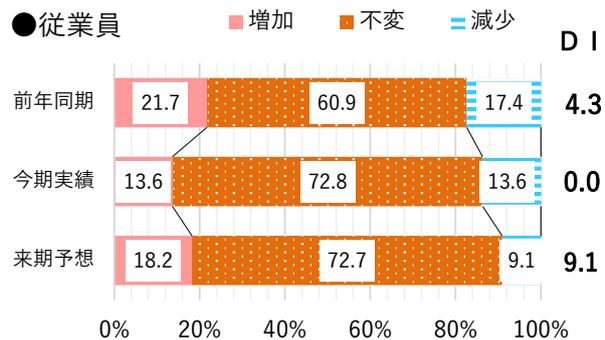
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



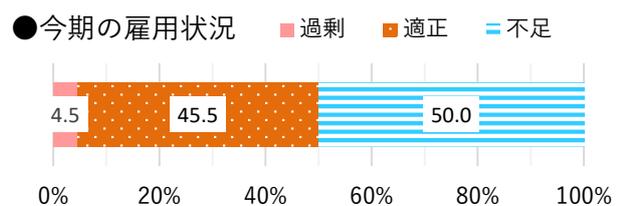
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.5%、適正であると回答した企業の割合は45.5%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



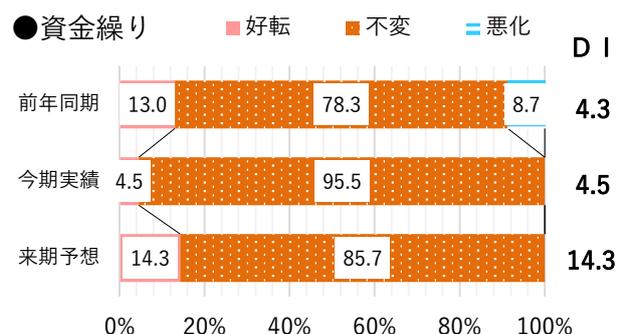
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、45.4%を占めました。回答全体では、50.0%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

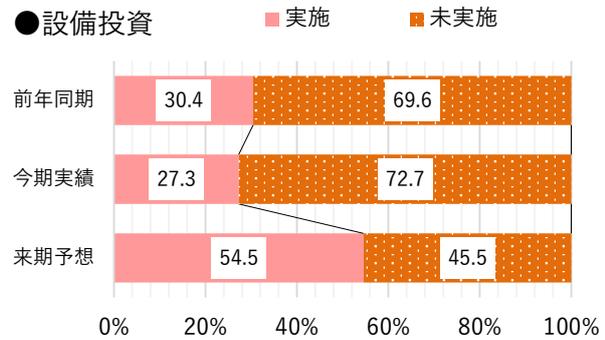
今期の資金繰りDIは4.5で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が強まると予想しています。



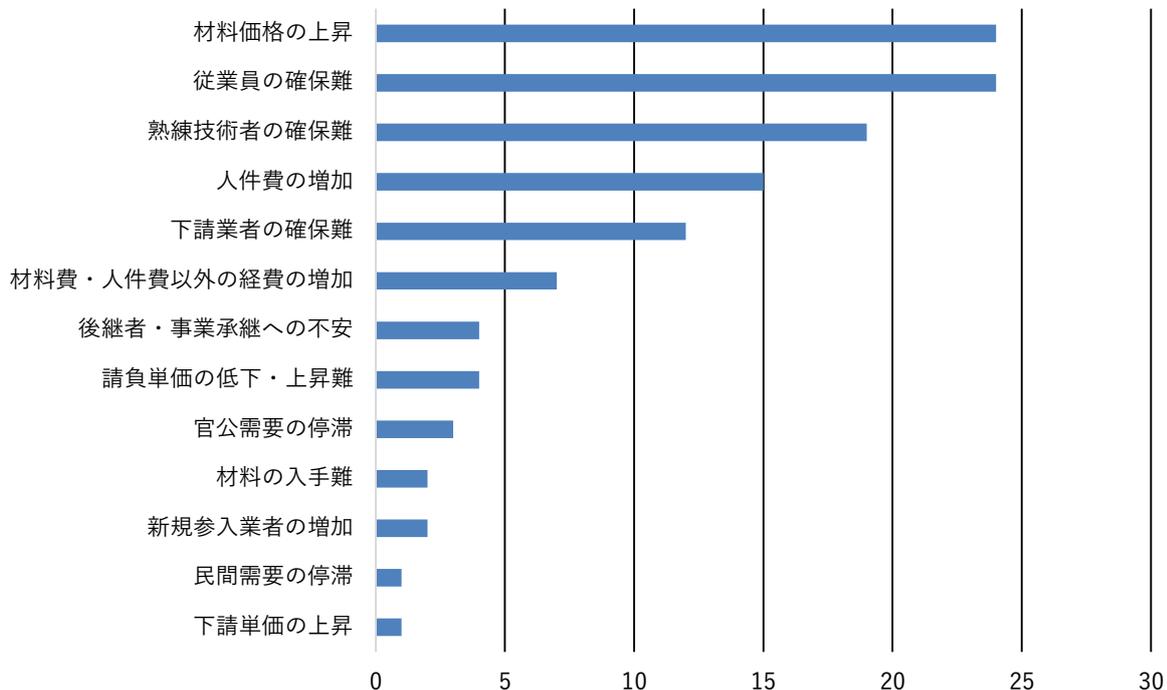
設備投資を実施した企業の割合は27.3%で、前年同期と比べ3.1%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「建設機械」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は54.5%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」（同位）、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格の上昇等、マイナス要因をどのように吸収するかが当面の課題だ。（一般土木工事業）
- 人材はやっと適正人数を確保できたが、また不足すると思う。（一般土木工事業）
- 前年度の繰越工事で完成工事高が増加した。（一般土木工事業）
- 仕入価格が上昇した。人材不足が課題だ。（一般土木工事業）
- 例年アルミサッシやガラス工事の仕事がなくなる時期のため、売上が大幅に減少した。（職別工事業）
- 受注工事が増加しているが、人手不足のため消化できていない。（電気工事業）
- 前年同期とほぼ変わらない。一時的に上向いても、通年で見るとあまり変化はない。（設備工事業）
- 売上が増加した。（設備工事業）

[来期の業況について]

- 令和5年度の工事は年度内に全て完成するため、来期の完成工事額は減少を見込む。(一般土木工事業)
- 4月頃からラピダス、北広島駅前再開発の関係で忙しくなる。(一般土木工事業)
- 仕入価格の上昇等、マイナス要因の対応に取り組みたい。(一般土木工事業)
- さらなる仕入価格の上昇、人材不足が予想される。(一般土木工事業)
- 雪が無くなると仕事が増えるため、例年通りの状況に回復すると思われる。(職別工事業)
- 人手不足が続き、受注工事を消化しきれない状況が続くと思われる。(電気工事業)
- 資材価格の値上げ幅や、いつ上げ止まりになるのかといったことが不透明で不安だ。(設備工事業)
- 引き続き売上の増加を見込む。(設備工事業)

市内企業倒産状況

2024年1月~3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比減少
負債総額は3億1,700万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	2件	3億1,700万円
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 4件)	負債 -2億8,900万円 (前年同期 6億600万円)
■1月 なし		
■2月 自動車販売（負債3億円：既往のシワ寄せによる破産）の1件が発生した。		
■3月 新聞販売店（負債1,700万円：既往のシワ寄せによる破産）の1件が発生した。		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2024年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は52件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は15棟18戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	52件	15棟18戸
前年同期比	件数 -9件 (前年同期 61件)	戸数 -8棟8戸 (前年同期 23棟26戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		